

我が国の海洋生物資源の資源管理指針 変更新旧対照表

改正案

現行

第1 我が国の海洋生物資源の保存及び管理に関する基本的な考え方

第1 我が国の海洋生物資源の保存及び管理に関する基本的な考え方

1 漁業概観

1 漁業概観

我が国は世界で第6位の広大な排他的経済水域を有し、また我が国周辺には暖流と寒流が位置し混合することや複雑な地形により世界でも有数の漁場が形成され、古来より多種多様な漁業が展開されるとともに、多様な漁村文化や豊かな魚食文化が育まれてきた。

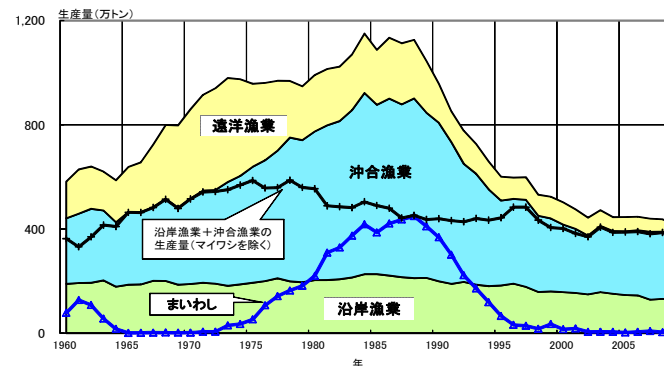
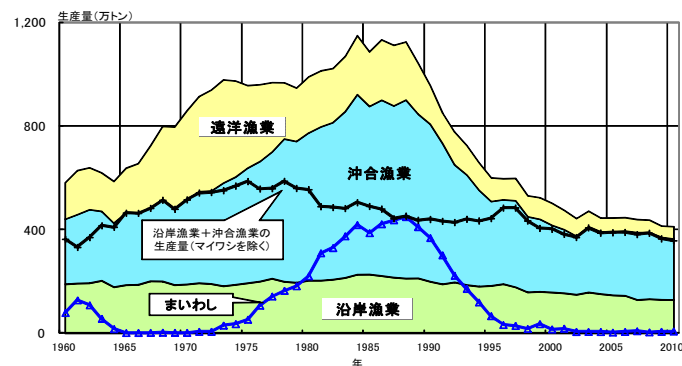
我が国は世界で第6位の広大な排他的経済水域を有し、また我が国周辺には暖流と寒流が位置し混合することや複雑な地形により世界でも有数の漁場が形成され、古来より多種多様な漁業が展開されるとともに、多様な漁村文化や豊かな魚食文化が育まれてきた。

一方、我が国の海面漁業生産量は、1984年の約1,150万トンピークに2010年には約410万トンと大きく減少している。

一方、我が国の海面漁業生産量は、1984年の約1,150万トンピークに2009年には約410万トンと大きく減少している。

(中略)

(中略)



我が国の海面漁業生産量の推移

我が国の海面漁業生産量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

2～4 (略)

2～4 (略)

## 第2 海洋生物資源毎の動向及び資源管理の方向

### 【魚種別資源管理】

#### 1 さんま

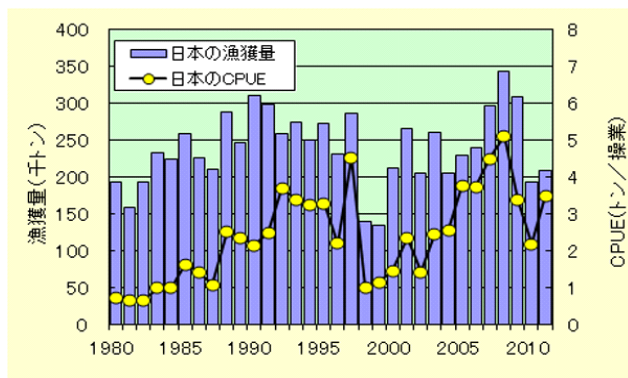
##### (1) 資源及び漁獲の状況

我が国周辺水域で漁獲対象とされるさんまは、北太平洋に広く分布し、これらが秋季に日本近海に来遊する。

2011年の日本の漁獲量は、20.8万トンであり、2年ぶりに20万トンを超えた。

資源水準は、過去のCPUE（1操業当りの漁獲量）との比較において、中位水準にあると判断される。また、資源量は2008年以降減少し、2011年に一時上昇したものの、2012年には再び減少し2010年の値をも下回ったことから、動向は減少と判断される。

なお、我が国における当該資源の漁獲については、北太平洋さんま漁業が大半を占めている。



## 第2 海洋生物資源毎の動向及び資源管理の方向

### 【魚種別資源管理】

#### 1 さんま

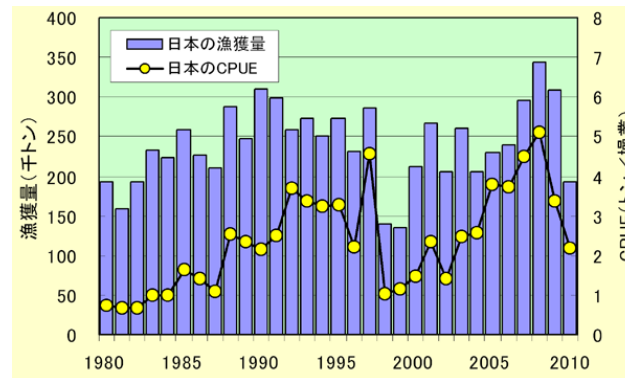
##### (1) 資源及び漁獲の状況

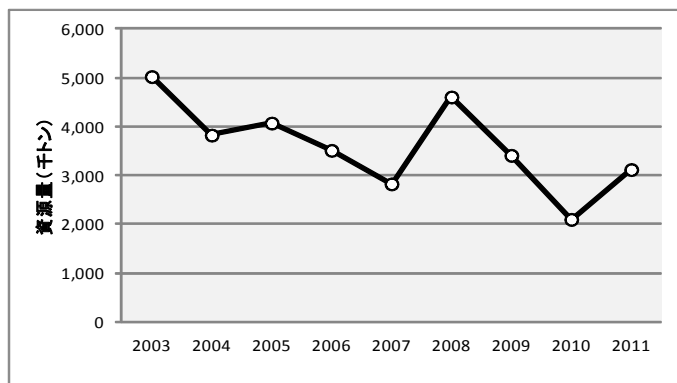
我が国周辺水域で漁獲対象とされるさんまは、北太平洋に広く分布し、これらが秋季に日本近海に来遊する。

2010年の日本の漁獲量は、19.3万トンであり、約10年ぶりに20万トンを割り込んだ。

資源水準は、過去のCPUE（1操業あたりの漁獲量）の比較において、中位水準にあると判断される。また、資源量は2008年以降、減少傾向を示したものの、2011年は上昇したことから、動向は横ばいと判断される。

なお、我が国における当該資源の漁獲については、北太平洋さんま漁業が大半を占めている。





さんまの漁獲量、CPUE及び資源量

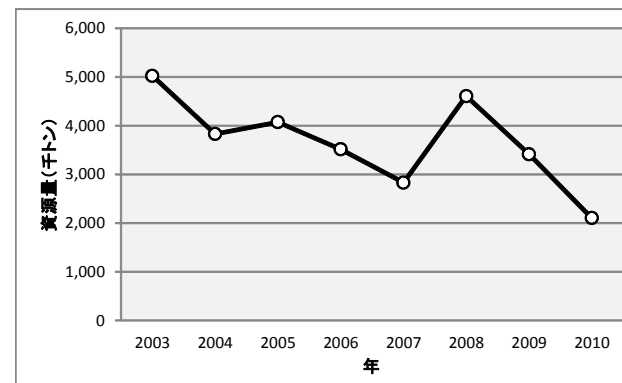
(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)

## 2 すけとうだら

### (1) 資源及び漁獲の状況

我が国周辺水域のすけとうだらは、北海道周辺及び東北沿岸に分布しており、生息域の分布等によって太平洋北部に分布する太平洋系群、日本海北部に分布する日本海北部系群、オホーツク海に分布するオホーツク海南部及び根室海峡に産卵場を有する根室海峡の4つの評価単位に分かれている。この中で最も資源の大きな太平洋系群は、2005年級群が卓越年級群となり良い加入となったものの、その後続く良い加入は確認されておらず、資源水準は中位、動向は減少と判断される。2012漁期年の資源量は86万トンである。日本海北部系群は、2006年級群の良い加入があったものの、その後の加入が悪い。2012年級群の発生は良い模様であるが、資源水準は依然として低位であり、動向は横ばいと判断される。オホーツク海南部は、資源水準は中位で動向は増加と判断される。根室海峡は、資源水準



さんまの漁獲量、CPUE及び資源量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)

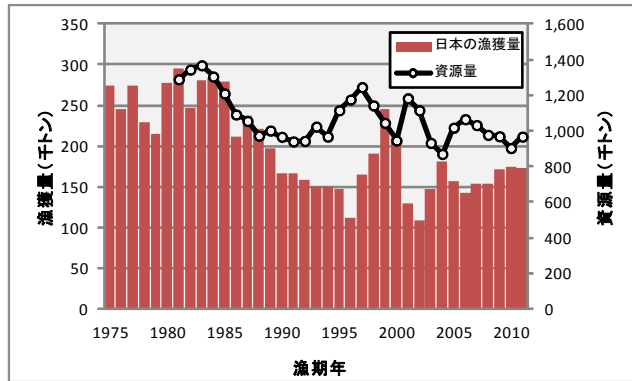
## 2 すけとうだら

### (1) 資源及び漁獲の状況

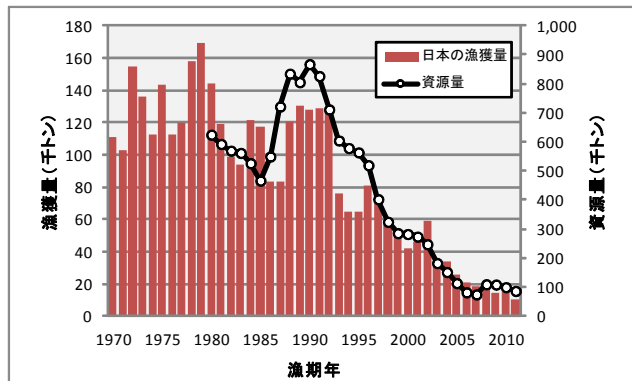
我が国周辺水域のすけとうだらは、北海道周辺及び東北沿岸に分布しており、生息域の分布等によって太平洋北部に分布する太平洋系群、日本海北部に分布する日本海北部系群、オホーツク海に分布するオホーツク海南部及び根室海峡に産卵場を有する根室海峡の4つの評価単位に分かれている。この中で最も資源の大きな太平洋系群は、2005年級群が卓越年級群となり良い加入となったものの、その後続く良い加入は確認されておらず、2011漁期年の資源量は82万トンであり、資源水準は中位、動向は横ばいと判断される。日本海北部系群については、2006年級群の良い加入があったものの、その後の加入が悪く、資源水準は依然として低位であり、動向は横ばいと判断される。オホーツク海南部は、資源水準は低位で動向は増加と判断される。根室海峡については資源水準は低位、動向は横ばい

は低位、動向は増加である。

なお、我が国では、主に沖合底びき網漁業及び刺網漁業により当該資源を漁獲しており、2011漁期年の漁獲量は24万トンである。



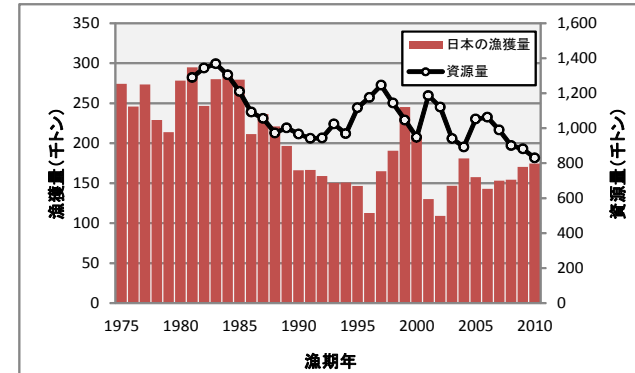
すけとうだら太平洋系群の漁獲量と資源量



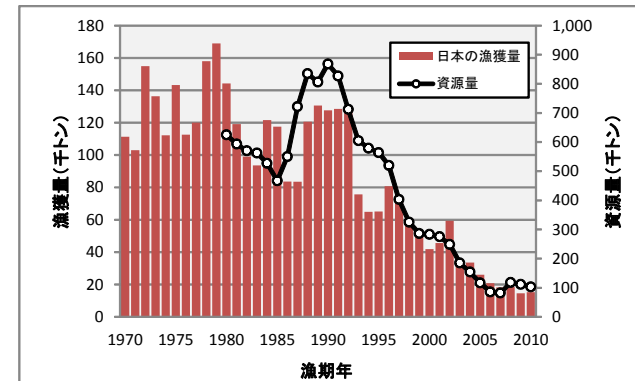
すけとうだら日本海北部系群の漁獲量と資源量

である。

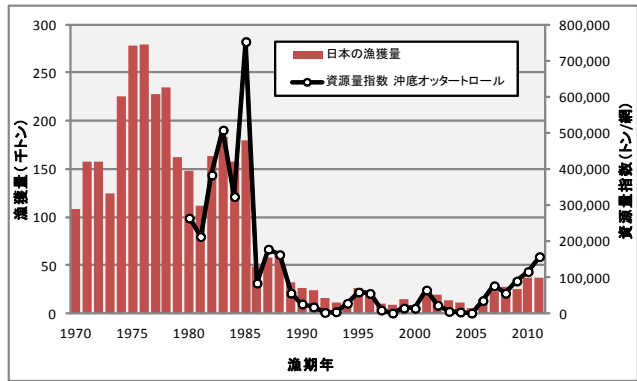
なお、我が国では、主に沖合底びき網漁業及び刺網漁業により当該資源を漁獲しており、2010漁期年の漁獲量は24万トンである。



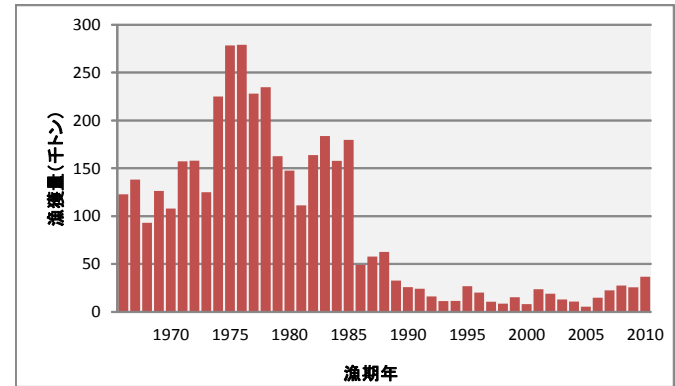
すけとうだら太平洋系群の漁獲量と資源量



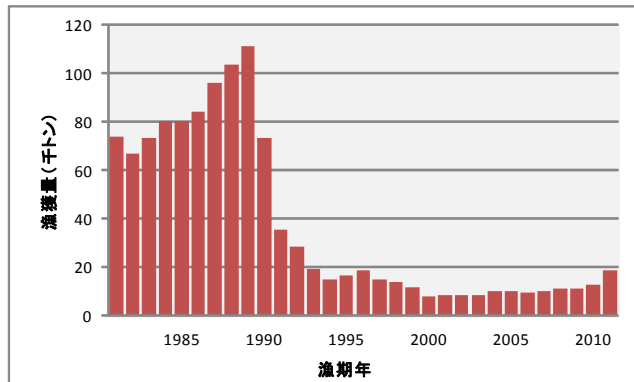
すけとうだら日本海北部系群の漁獲量と資源量



すけとうだらオホーツク海南部の漁獲量と資源量指数

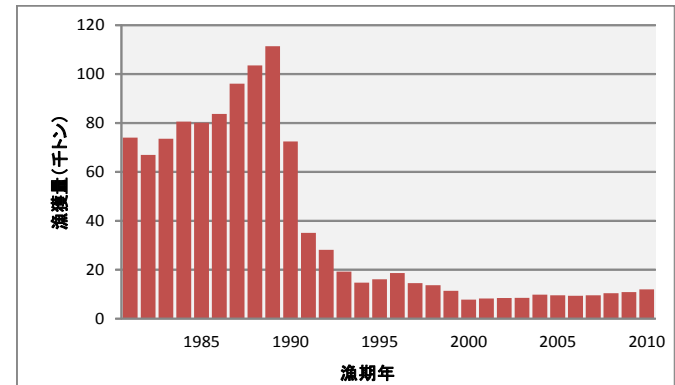


すけとうだらオホーツク海南部の漁獲量



すけとうだら根室海峡の漁獲量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)



すけとうだら根室海峡の漁獲量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

(2) (略)

(2) (略)

### (3) 資源管理措置

すけとうだら日本海北部系群は、資源の回復には至っていないものの、これまで行ってきた高豊度の2006年級群の獲り控え等は一定の管理効果が認められることから、引き続き高豊度年級群の獲り控え等の資源管理措置を講じていくことが重要である。

このため、北海道日本海地区において専ら本系群を利用する沖合底びき網漁業については、可能な限り資源の保存を図るため、大幅に漁獲努力量（操業隻日数）を削減し、操業隻日数の上限設定（強度資源管理）を実施する必要がある。

（中略）

## 3 まあじ

### (1) 資源及び漁獲の状況

我が国周辺水域のまあじは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群とに大別されるが、当該資源の分布域は資源状況により大きく異なり、両系群は一部水域において混在して分布している。太平洋系群及び対馬暖流系群の2012年資源量はそれぞれ5万トン、55万トンで、水準はいずれも中位、動向はそれぞれ減少、増加と判断される。当該資源は、新規加入群の状況及び海域によって変動が大きいことから、資源動向について注視する必要がある。

なお、我が国では、主にまき網漁業（大中型、中型、小型）及び定置漁業により当該資源を漁獲しており、2011年の漁獲量は16万トンである。

### (3) 資源管理措置

すけとうだら日本海北部系群は、2006年級群を主体として形成されているが、その他の年級群の発生状況は良好でないことから、同年級群の保護が重要な課題となっている。

このため、北海道日本海地区において専ら本系群を利用する沖合底びき網漁業については、可能な限り資源の保存を図るため、大幅に漁獲努力量（操業隻日数）を削減し、操業隻日数の上限設定（強度資源管理）を実施する必要がある。

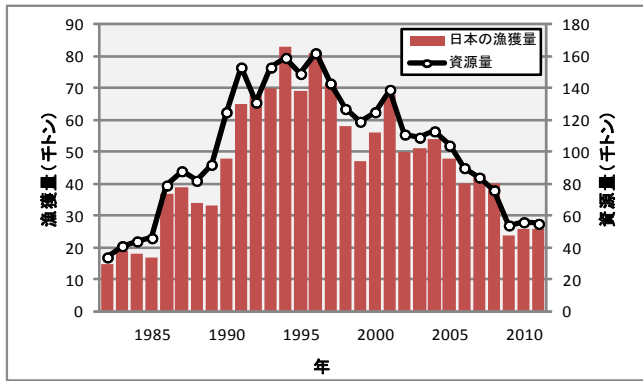
（中略）

## 3 まあじ

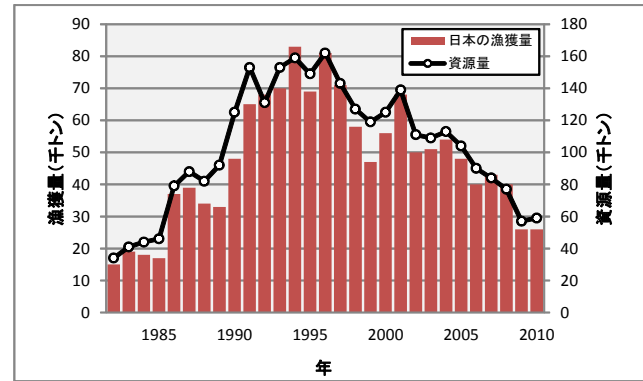
### (1) 資源及び漁獲の状況

我が国周辺水域のまあじは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群とに大別されるが、当該資源の分布域は資源状況により大きく異なり、両系群は一部水域において混在して分布している。太平洋系群及び対馬暖流系群の2011年資源量はそれぞれ6万トン、54万トンで、水準はいずれも中位、動向はそれぞれ減少、横ばいと判断される。当該資源は、新規加入群の状況及び海域によって変動が大きいことから、資源動向について注視する必要がある。

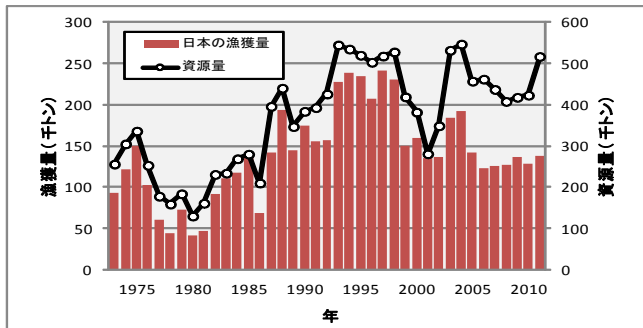
なお、我が国では、主にまき網漁業（大中型、中型、小型）及び定置漁業により当該資源を漁獲しており、2010年の漁獲量は16万トンである。



まあじ太平洋系群の漁獲量及び資源量

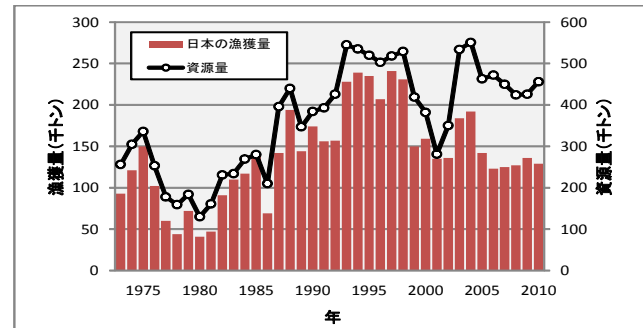


まあじ太平洋系群の漁獲量及び資源量



まあじ対馬暖流系群の漁獲量及び資源量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)



まあじ対馬暖流系群の漁獲量及び資源量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)

(2) ~ (3) (略)

#### 4 まいわし

##### (1) 資源及び漁獲の状況

我が国周辺水域のまいわしは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群とに大別される。当該資源は、これまで数十年単位で大きく変動してきており、その資源状況によって分布域が大きく変化することが知られている。両系群とも1988年から1989年を境として漁獲量が大幅に減少し、近年は低い水準で推移してきた。

当該資源の状況としては、太平洋系群は、2010年級群の加入が良く、資源水準は中位であり、資源量が2011年63万トンから2012年86万トンと、近年は一貫して増加していることから、動向は増加と判断される。対馬暖流系群は、資源水準は低位であり、過去5年間（2007年～2011年）の資源量が増加傾向にあることから、動向は増加と判断される。

しかし、当該資源は、新規加入群の状況及び海域によって変動が大きいことから、資源動向について注視する必要がある。

なお、我が国では、主にまき網漁業（大中型、中型、小型）及び定置漁業により当該資源を漁獲しており、2011年の漁獲量は17.5万トンである。

#### 4 まいわし

##### (1) 資源及び漁獲の状況

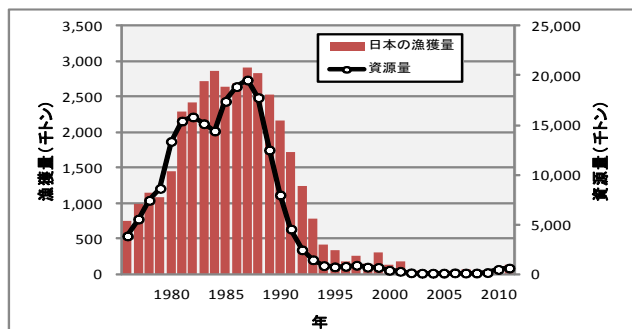
我が国周辺水域のまいわしは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群とに大別される。当該資源は、これまで数十年単位で大きく変動してきており、その資源状況によって分布域が大きく変化することが知られている。両系群とも1988年から1989年を境として漁獲量が大幅に減少し、近年は低い水準で推移している。

当該資源の状況は、両系群ともに資源水準は低位であるが、太平洋系群の資源量が2010年46万トンから2011年63万トン、対馬暖流系群は過去5年間（2006～2010年）の資源量が増加傾向にあることから、動向は増加と判断される。

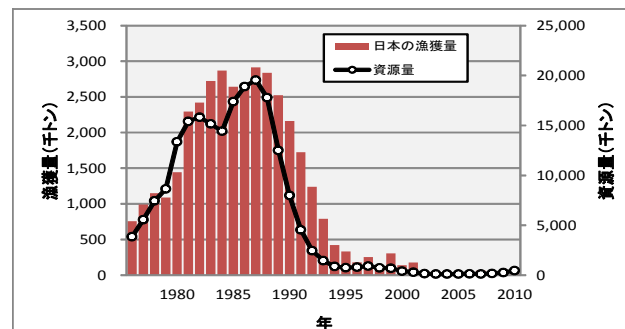
しかし、親魚量は低い水準にあり、また当該資源は、新規加入群の状況及び海域によって変動が大きいことから、資源動向について注視する必要がある。

なお、我が国では、主にまき網漁業（大中型、中型、小型）及び定置漁業により当該資源を漁獲しており、2010年の漁獲量は7.4万トンである。

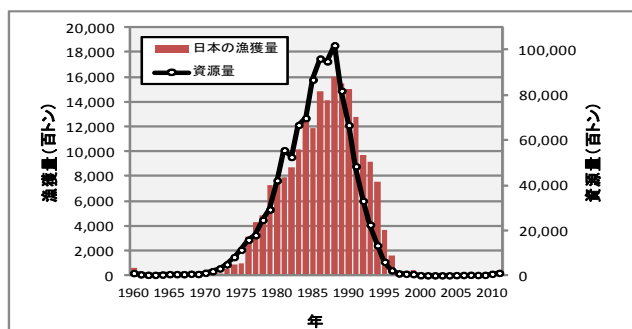




まいわし太平洋系群の漁獲量及び資源量

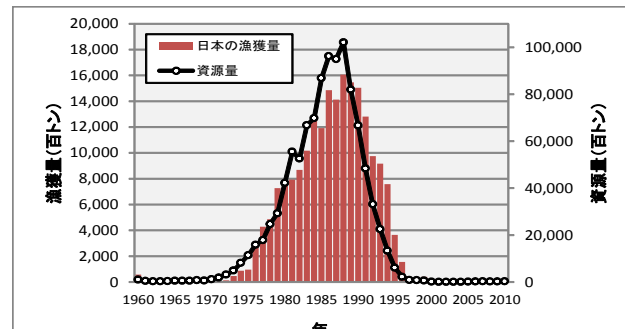


まいわし太平洋系群の漁獲量及び資源量



まいわし対馬暖流系群の漁獲量及び資源量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)



まいわし対馬暖流系群の漁獲量及び資源量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

## (2) 資源管理目標

太平洋系群については、資源水準の維持又は増大を基本方向として、漁獲動向に注意しつつ、管理を行う。

対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持又は増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行う。

## (2) 資源管理目標

太平洋系群については、資源水準の維持又は増大を基本方向として、漁獲動向に注意しつつ、管理を行う。

対馬暖流系群については、大韓民国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持又は増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行う。

(3) (略)

5 さば類（まさば及びごまさば）

(1) 資源及び漁獲の状況

我が国周辺水域のまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群に、また、ごまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と主に東シナ海に分布する東シナ海系群に大別され、それぞれ両系群は一部水域において混在して分布している。全般としては、ごまさばは、まさばに比べ南方域に分布しているが、近年、太平洋では北海道沖合まで分布がみられている。

まさばの資源の状況は、太平洋系群の資源水準は低位ながら2004年、2007年、2009年と豊度の高い加入があり資源量は2012漁期年105万トンで、動向としては増加と判断される。対馬暖流系群の資源量は2012年79万トンで、資源水準は中位であり、動向は過去5年間（2007年～2011年）の資源量が横ばい傾向にあることから、横ばいと判断される。一方ごまさばの資源の状況は、太平洋系群の資源量は2012年73万トンで資源水準は高位であり、動向は横ばいと判断される。東シナ海系群の資源量は2012年16万トンで資源水準は中位であり、動向は増加と判断される。まさば及びごまさばは、共に新規加入群の状況によって変動が大きいことから、資源動向について今後とも注視する必要がある。

なお、我が国では、主にまき網漁業（大中型、中型、小型）及び定置漁業により当該資源を漁獲しており、2011漁期年の漁獲量は、まさば、ごまさばともに22万トンである。

(3) (略)

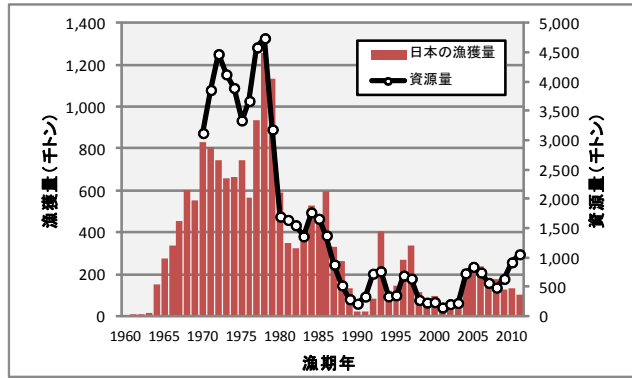
5 さば類（まさば及びごまさば）

(1) 資源及び漁獲の状況

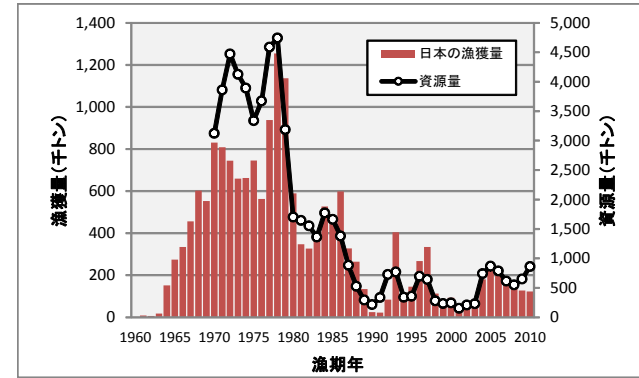
我が国周辺水域のまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群に、また、ごまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と主に東シナ海に分布する東シナ海系群に大別され、それぞれ両系群は一部水域において混在して分布している。全般としてはごまさばは、まさばに比べ南方域に分布しているが、近年、太平洋では東北水域まで分布がみられている。

資源の状況は、まさばは、太平洋系群については資源水準は低位ながら2004年、2007年、2009年と豊度の高い加入があり資源量は2011漁期年89万トンで、動向としては横ばいと判断される。対馬暖流系群の資源量は2011年87万トンで、資源水準は中位であり、動向は過去5年間（2006～2010年）の資源量が増加傾向にあることから、増加と判断される。ごまさばは、太平洋系群の資源量は2011年50万トンで資源水準は高位であり、動向は横ばいと判断される。東シナ海系群の資源量は2011年16万トンで資源水準は中位であり、動向は横ばいと判断される。まさば及びごまさばは、共に新規加入群の状況によって変動が大きいことから、資源動向について今後とも注視する必要がある。

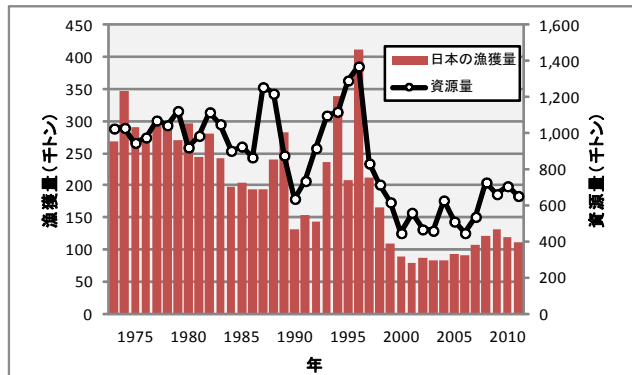
なお、我が国では、主にまき網漁業（大中型、中型、小型）及び定置漁業により当該資源を漁獲しており、2010漁期年の漁獲量は、まさばが26万トン、ごまさばが22万トンである。



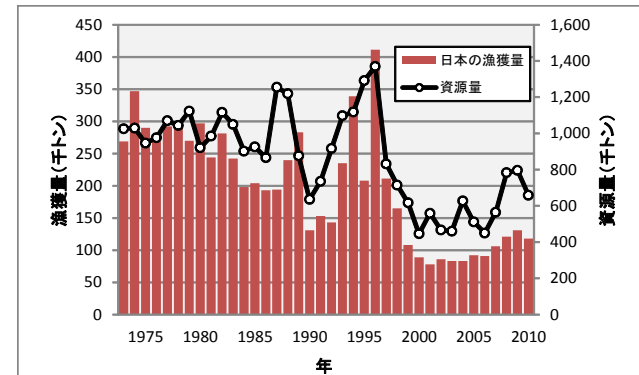
まさば太平洋系群の漁獲量及び資源量



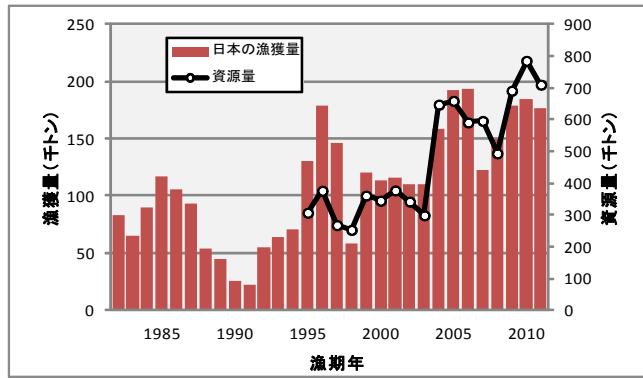
まさば太平洋系群の漁獲量及び資源量



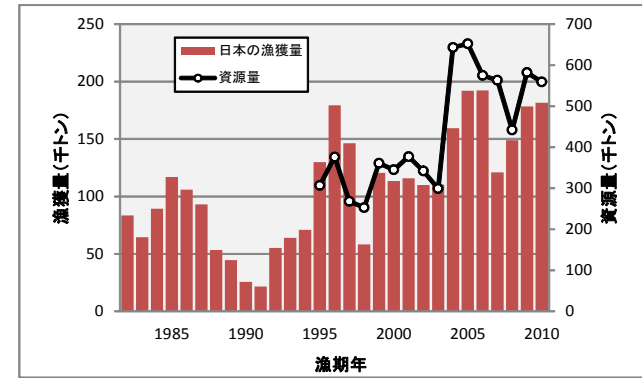
まさば対馬暖流系群の漁獲量及び資源量



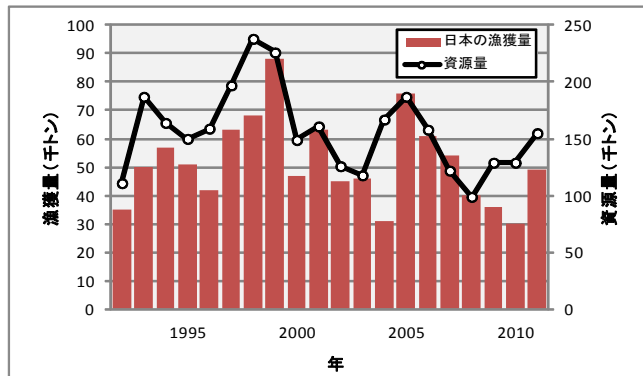
まさば対馬暖流系群の漁獲量及び資源量



ごまさば太平洋系群の漁獲量及び資源量

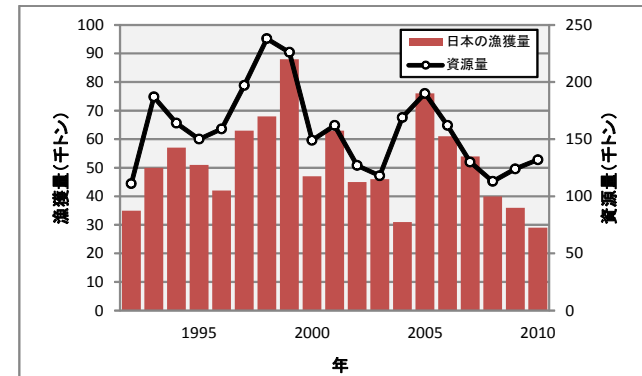


ごまさば太平洋系群の漁獲量及び資源量



ごまさば東シナ海系群の漁獲量及び資源量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)



ごまさば東シナ海系群の漁獲量及び資源量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

## (2) 資源管理目標

まさば太平洋系群については、資源の高水準での持続的利用を可能とするためには、安定的な再生産（新規加入）の維持に必要な親魚量45万トン以上の確保が必要とされているが、現在の資源水準及び漁業経営に及ぼす影響等も考慮した場合に、短期間で親魚量45万トン以上を達成しこの水準を安定させることは難しく、複数回の卓越年級群の発生を利用した段階的な資源回復を図っていくことが適当である。このため、引き続き優先的に資源の回復を図るよう、管理を行う。

(中略)

## (3) (略)

## 6 するめいか

### (1) 資源及び漁獲の状況

我が国周辺水域のするめいかは、日本近海に広く分布し、季節により南北に大きく回遊するが、主に1月～3月に東シナ海で発生する冬季発生系群と、10月～12月に北陸沿岸域から東シナ海で発生する秋季発生系群とに大別される。

資源の状況は、資源量をみると、冬季発生系群は、2012年で82万トンであり、資源水準は中位、動向は減少と判断される。秋季発生系群は、近年中位～高位水準であり、2012年は141万トンとなり、資源水準は高位、動向は横ばいにあると判断される。

当該資源は、海洋環境によって変動が大きいことから、資源動向について注視する必要がある。

なお、我が国では、主にいか釣り漁業、定置漁業及び沖合底びき網漁業により当該資源を漁獲しており、その他大中型まき網漁業等

## (2) 資源管理目標

まさば太平洋系群については、資源の高水準での持続的利用を可能とするためには、安定的な再生産（新規加入）の維持に必要な産卵親魚量45万トン以上の確保が必要とされているが、現在の資源水準及び漁業経営に及ぼす影響等も考慮した場合に、短期間で産卵親魚量45万トン以上を達成することは困難であり、複数回の卓越年級群の発生を利用した段階的な資源回復を図っていくことが適当である。このため、引き続き優先的に資源の回復を図るよう、管理を行う。

(中略)

## (3) (略)

## 6 するめいか

### (1) 資源及び漁獲の状況

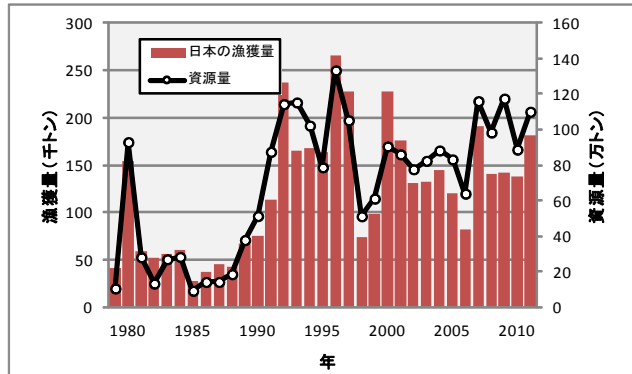
我が国周辺水域のするめいかは、日本近海に広く分布し、季節により南北に大きく回遊するが、主に1～3月に東シナ海で発生する冬季発生系群と、10～12月に北陸沿岸域から東シナ海で発生する秋季発生系群とに大別される。

資源の状況は、資源量をみると、冬季発生系群は、2011年で90万トンと資源水準は中位、動向は減少と判断される。秋季発生系群は、近年中位～高位水準であり、2011年は135万トンとなり、水準は高位、動向は横ばいにあると判断される。

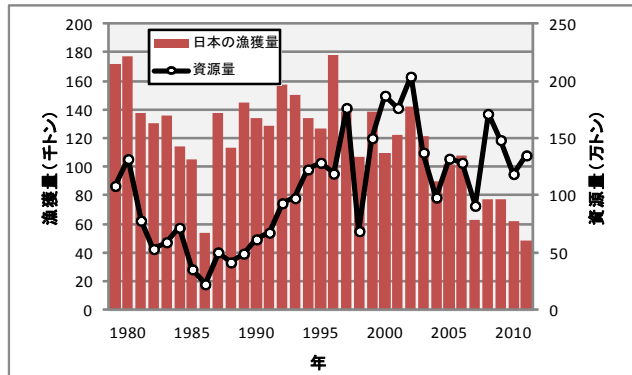
当該資源は、海洋環境によって変動が大きいことから、資源動向について注視する必要がある。

なお、我が国では、主にいか釣り漁業、定置漁業及び沖合底びき網漁業により当該資源を漁獲しており、その他大中型まき網漁業等

によっても漁獲が行われている。2011年の漁獲量は23万トンである。



するめいか冬季発生系群の漁獲量及び資源量

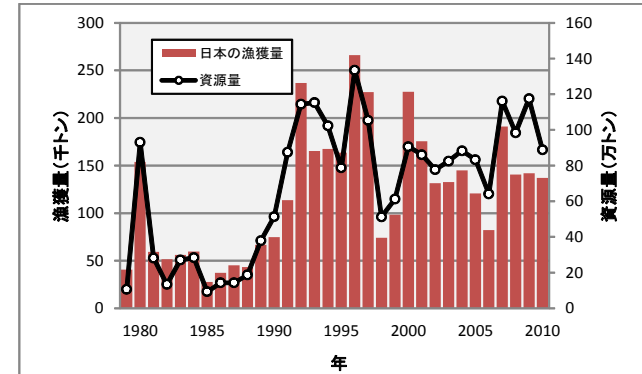


するめいか秋季発生系群の漁獲量及び資源量

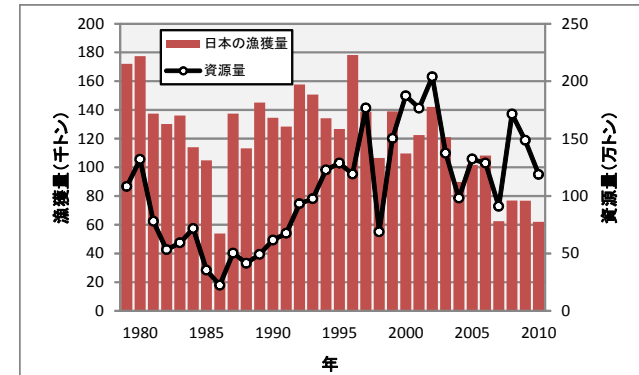
(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)

によっても漁獲が行われている。2010年の漁獲量は20万トンである。



するめいか冬季発生系群の漁獲量及び資源量



するめいか秋季発生系群の漁獲量及び資源量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)

## 7 ずわいがに

### (1) 資源及び漁獲の状況

我が国周辺水域のずわいがには、日本海大陸棚の縁辺部、大和堆、銚子以北の太平洋岸及びオホーツク海の水深150m～750mの範囲に分布し、生息域の分布によって、オホーツク海系群、太平洋北部系群、日本海系群及び北海道西部系群に分けられる。資源の状況を見ると、この中で最も資源の大きな日本海系群は、富山県以西（A海域）では1990年代後半から資源は回復傾向にあり、以前は低位であった資源水準が中位に回復した。2008漁期年以降の資源量の推移から、資源動向は減少と判断される。新潟県以北（B海域）では、資源水準は高位、動向は横ばいと判断される。また、オホーツク海系群の資源水準は低位で動向は横ばい、太平洋北部系群の資源水準は中位で動向は減少、北海道西部系群の資源水準は高位で動向は増加であると判断される。

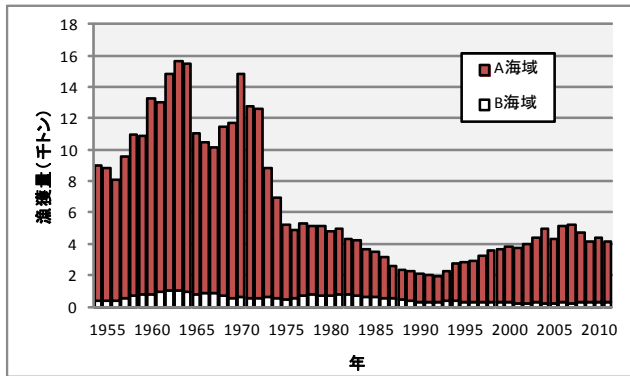
なお、我が国における当該資源の漁獲については、沖合底びき網漁業が大半を占めており、その他かご漁業であるずわいがに漁業によっても漁獲が行われている。2011漁期年の漁獲量は4,200トンである。

## 7 ずわいがに

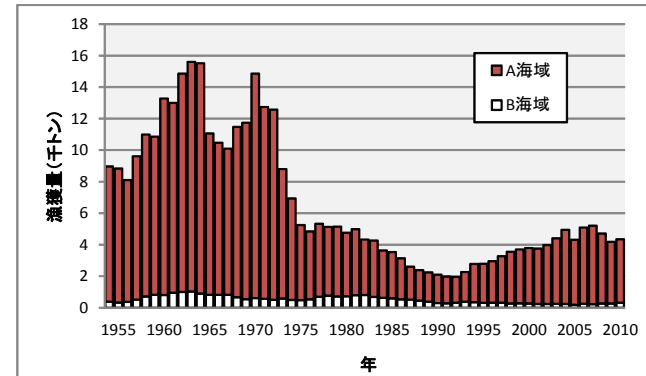
### (1) 資源及び漁獲の状況

我が国周辺水域のずわいがには、日本海大陸棚の縁辺部、大和堆、銚子以北の太平洋岸及びオホーツク海の水深150～750mの範囲に分布し、生息域の分布によって、オホーツク海系群、太平洋北部系群、日本海系群及び北海道西部系群に分けられる。資源の状況を見ると、この中でもっとも資源の大きな日本海系群は、富山県以西（A海域）では1990年代後半から資源は回復傾向にあり、以前は低位であった資源水準が中位に回復した。2007漁期年以降の資源量の推移により、資源動向は減少と判断される。新潟県以北（B海域）では、資源水準は昨年の中位から高位、動向は増加と判断される。また、オホーツク海系群の資源水準は低位で動向は横ばい、太平洋北部系群の資源水準は中位で動向は横ばい、北海道西部系群の資源水準は中位で動向は横ばいであると判断される。

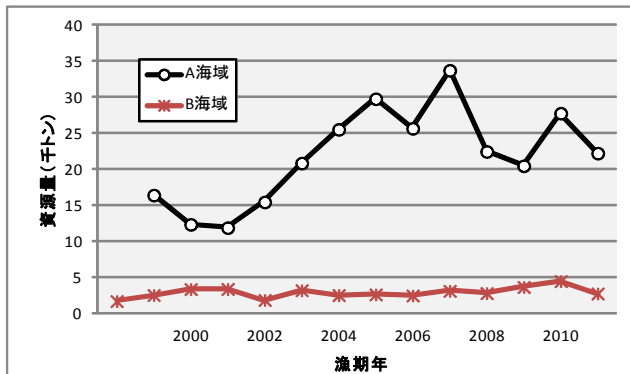
なお、我が国における当該資源の漁獲については、沖合底びき網漁業が大半を占めており、その他かご漁業であるずわいがに漁業によっても漁獲が行われている。2010漁期年の漁獲量は4,500トンである。



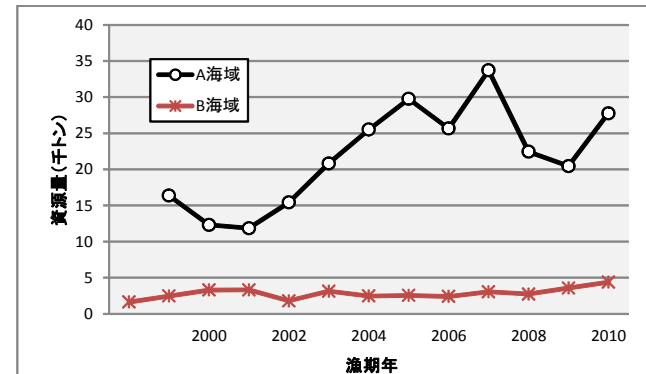
ずわいがに日本海系群の漁獲量



ずわいがに日本海系群の漁獲量

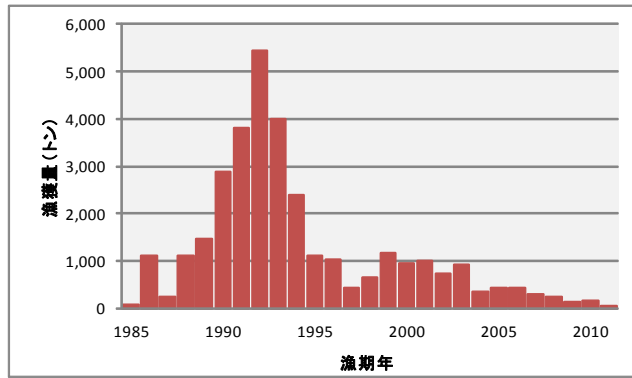


ずわいがに日本海系群の資源量

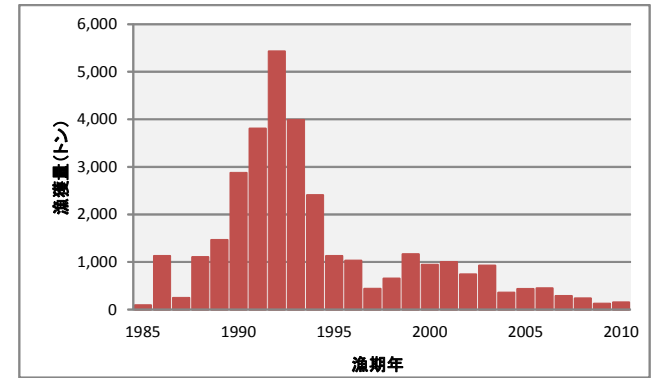


ずわいがに日本海系群の資源量

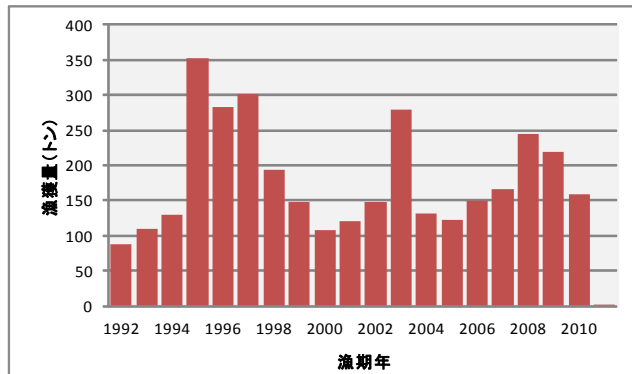




ずわいがにオホーツク海系群の漁獲量

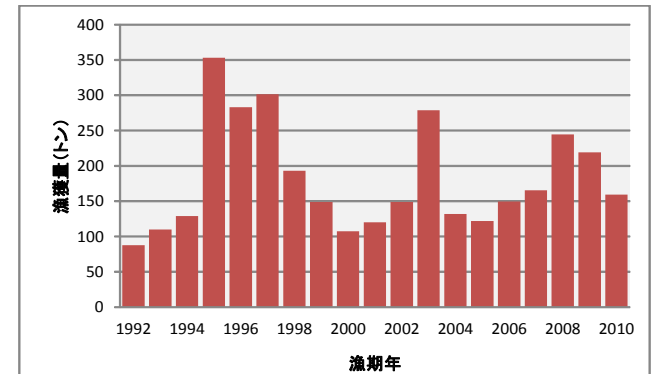


ずわいがにオホーツク海系群の漁獲量

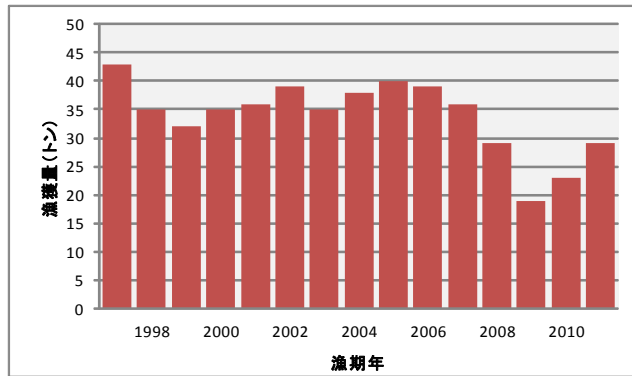


ずわいがに太平洋北部系群の漁獲量

注) 2011漁期年は、東日本大震災の影響により漁獲量が減少



ずわいがに太平洋北部系群の漁獲量



ずわいがに北海道西部系群の漁獲量

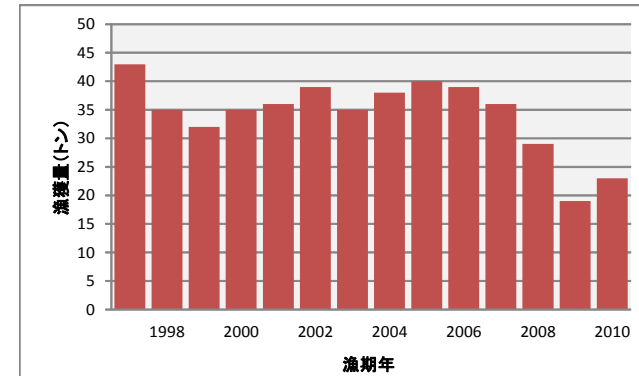
(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

(2) 資源管理目標

日本海系群、太平洋北部系群及び北海道西部系群については、資源の維持又は増大を基本方向として、安定的な漁獲量を継続できるよう、管理を行う。特に、日本海系群については、その主たる生息域に日韓北部暫定水域が含まれており、同水域で**大韓民国**漁船によっても採捕が行われていることから、同国との協調した管理に向けて取り組む。

(中略)

(3) (略)



ずわいがに北海道西部系群の漁獲量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

(2) 資源管理目標

日本海系群、太平洋北部系群及び北海道西部系群については、資源の維持又は増大を基本方向として、安定的な漁獲量を継続できるよう、管理を行う。特に、日本海系群については、その主たる生息域に日韓北部暫定水域が含まれており、同水域で**韓国**漁船によっても採捕が行われていることから、同国との協調した管理に向けて取り組む。

(中略)

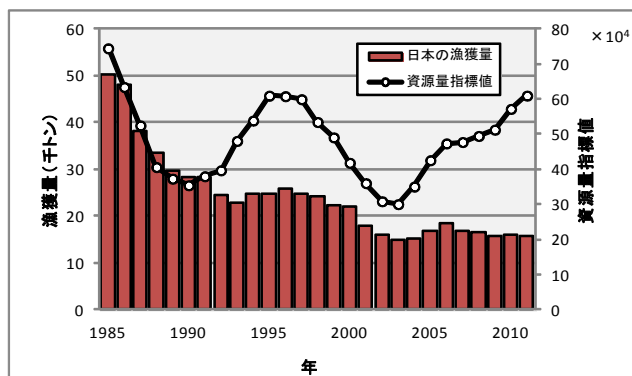
(3) (略)

## 8 ベにずわいがに

### (1) 資源及び漁獲の状況

日本海のべにずわいがには、北海道から島根県沖にかけての水深500mから2,700mの水深帯に広く分布し、分布の中心は1,000mから2,000mである。2002年以降資源量指標値は増加傾向にあり、動向は増加、資源水準は中位と判断される。

なお、我が国では、主にかご漁業である日本海べにずわいがに漁業及びべにずわいがにかご漁業により当該資源を漁獲しており、2011年の漁獲量は1.6万トンである。



べにずわいがに日本海系群の漁獲量及び資源量指標値

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

### (2) 資源管理目標

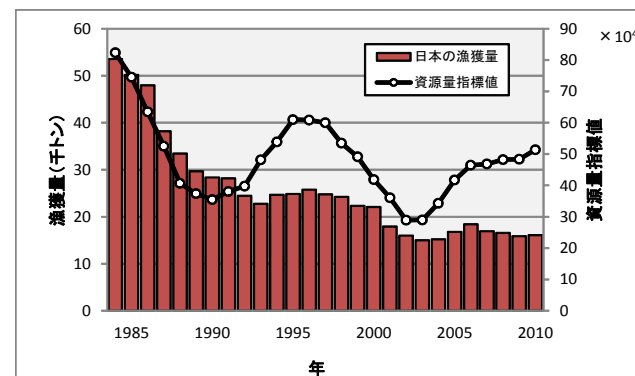
べにずわいがに資源については、その主たる生息域に日韓北部暫定水域が含まれており、同水域で大韓民国漁船によっても採捕が行われていることから、同国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源を引き続き中位水準以上に維持することを基本方向として、管

## 8 ベにずわいがに

### (1) 資源及び漁獲の状況

日本海のべにずわいがには、北海道から島根県沖にかけての水深500mから2,700mの水深帯に広く分布し、分布の中心は1,000mから2,000mである。2002年以降資源量指標値は増加傾向にあり、動向は増加、資源水準は中位水準に達したものの、低位をわずかに脱した程度と判断される。

なお、我が国では、主にかご漁業である日本海べにずわいがに漁業及びべにずわいがにかご漁業により当該資源を漁獲しており、2010年の漁獲量は1.6万トンである。



べにずわいがに日本海系群の漁獲量及び資源量指標値

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

### (2) 資源管理目標

べにずわいがに資源については、その主たる生息域に日韓北部暫定水域が含まれており、同水域で韓国漁船によっても採捕が行われていることから、同国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の回復を基本方向として、管理を行う。

理を行う。

(3) 資源管理措置

日本海べにずわいがに漁業

資源の維持又は増大を図るため、当該漁業においては、許可内容、制限又は条件等の公的措置を遵守するほか、自主的措置として、下記の措置に重点的に取り組む必要がある。

○漁業者別及び船舶別の年間の漁獲量上限の設定

(中略)

9 くろまぐろ (太平洋くろまぐろ)

(1) 資源及び漁獲の状況

太平洋くろまぐろの資源状況は、1952年～2005年と比較して中間的な水準であると推定されているが、未成魚の漁獲圧の増加により、近年、親魚量が減少傾向となっている。卓越年級群が繰り返し発生することにより、近年比較的良い加入が続いているが、現状以上に漁獲圧が増加した場合、将来資源水準の悪化を引き起こす可能性がある。現在の資源の水準は中位、動向は減少と判断される。

くろまぐろは、近年、国際社会において資源管理に高い関心が集まっているが、特に太平洋くろまぐろは、全漁獲量の約7割が我が国によるものであり、また我が国周辺水域内に産卵場があること等から、我が国はその持続的利用に大きな責任を有する立場にある。

なお、我が国では、主に大中型まき網漁業、曳き縄漁業及び定置漁業により太平洋くろまぐろを漁獲しており、2010年の漁獲量は0.8万トン、2011年の漁獲量は1.3万トンである。

(3) 資源管理措置

日本海べにずわいがに漁業

低位水準にある資源の回復を図るため、当該漁業においては、許可内容、制限又は条件等の公的措置を遵守するほか、自主的措置として、下記の措置に重点的に取り組む必要がある。

○漁業者別及び船舶別の年間の漁獲量上限の設定

(中略)

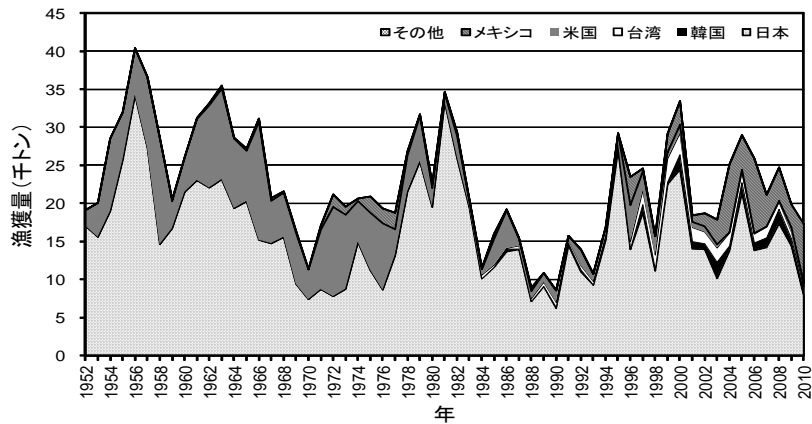
9 くろまぐろ (太平洋くろまぐろ)

(1) 資源及び漁獲の状況

太平洋くろまぐろの資源状況は、1952年～2005年と比較して中間的な水準であると推定されているが、未成魚の漁獲圧の増加により、近年、親魚量が減少傾向となっている。卓越年級群が繰り返し発生することにより、近年比較的良い加入が続いているが、現状以上に漁獲圧が増加した場合、将来資源水準の悪化を引き起こす可能性がある。現在の資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。

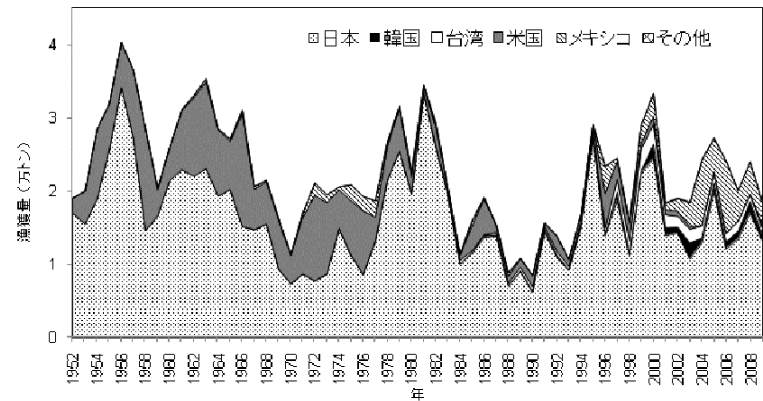
くろまぐろは、近年、国際社会において資源管理に高い関心が集まっているが、特に太平洋くろまぐろは、全漁獲量の7割強が我が国によるものであり、また我が国周辺水域内に産卵場があること等から、我が国はその持続的利用に大きな責任を有する立場にある。

なお、我が国では、主に大中型まき網漁業、曳き縄漁業及び定置漁業により太平洋くろまぐろを漁獲しており、2009年の漁獲量は1.3万トンである。



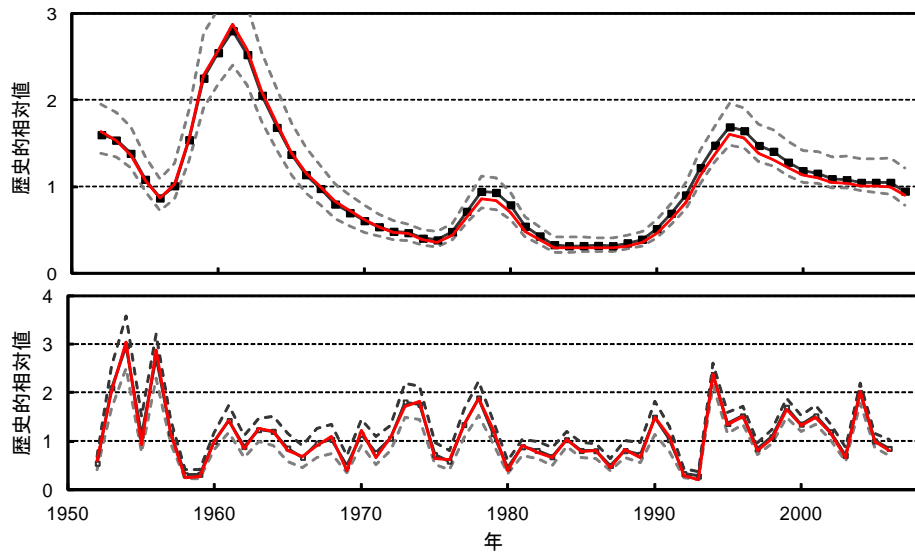
太平洋くろまぐろの国別漁獲量の推移 (1952~2010)

(国際漁業資源の現況をもとに作成)



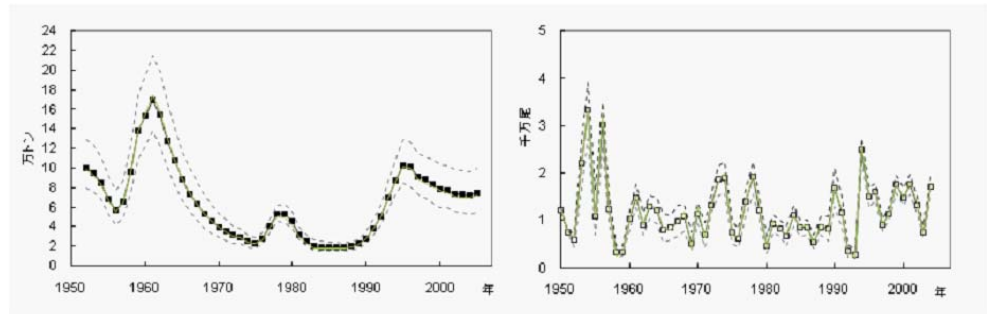
太平洋くろまぐろの国別漁獲量の推移 (1952~2009)

(国際漁業資源の現況をもとに作成)



2010年の資源評価で推定された太平洋くろまぐろの産卵親魚量 (上図) 及び加入量 (下図) の推定値 (実線は中央値、点線は90%信頼区間)

(国際漁業資源の現況をもとに作成)



2008年の資源評価で推定された太平洋くろまぐろの産卵親魚量 (左図) 及び加入量 (右図) の推定値 (実線は中央値、点線は90%信頼区間)

(国際漁業資源の現況をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)

(4) その他資源管理のために取り組む事項

動力漁船を使用して太平洋くろまぐろを獲ることを目的とする曳き縄等の漁業（ただし、既に大臣又は知事等の管理下にある漁業を除く）については、将来の隻数制限も視野に入れ、漁業法に基づく広域漁業調整委員会指示により、届出及び漁獲実績報告書の提出を義務づける。また、くろまぐろを主たる漁獲物とする定置漁業については免許数の抑制を引き続き行う。

さらに、くろまぐろ養殖業については養殖場の登録及び養殖実績報告の提出を義務づけ、輸入くろまぐろについては漁獲情報の収集等を引き続き行うことにより、くろまぐろ漁業・養殖業の実態の把握に努める。

10 めばち

(1) 資源及び漁獲の状況

東部太平洋では、全米熱帯マグロ類委員会（IATTC）において、資源量はやや高いが、漁獲圧もやや高いと評価されている。資源の水準は低位、動向は横ばいと判断される。中西部太平洋では、WCPFCにおいて、近年の漁獲は過剰な状態にあると評価されている。資源の水準は中位、動向は減少と評価される。インド洋では、インド洋まぐろ類委員会（IOTC）において、資源及び漁獲は適正なレベルにあると評価されている。資源の水準は中位、動向は微増と判断される。大西洋では、大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）の評価において、過剰な漁獲の状況は脱したと見られている。資源の水準は低位、動向は横ばいと判断される。

なお、我が国では、主に遠洋まぐろはえ縄漁業及び近海まぐろはえ縄漁業により当該資源を漁獲しており、2010年の漁獲量は5.4万ト

(2) ~ (3) (略)

(4) その他資源管理のために取り組む事項

動力漁船を使用して太平洋くろまぐろを獲ることを目的とする曳き縄等の漁業（ただし、既に大臣又は知事等の管理下にある漁業を除く）については、将来の隻数制限も視野に入れ、漁業法に基づく広域漁業調整委員会指示により、届出制を導入するとともに、漁獲実績報告書の提出を義務づける。また、くろまぐろを主たる漁獲物とする定置漁業については免許数の抑制を引き続き行う。

さらに、くろまぐろ養殖業については養殖場の登録制及び養殖実績報告の提出の義務づけ、輸入くろまぐろについては漁獲情報の収集等を引き続き行うことにより、くろまぐろ漁業・養殖業の実態の把握に努める。

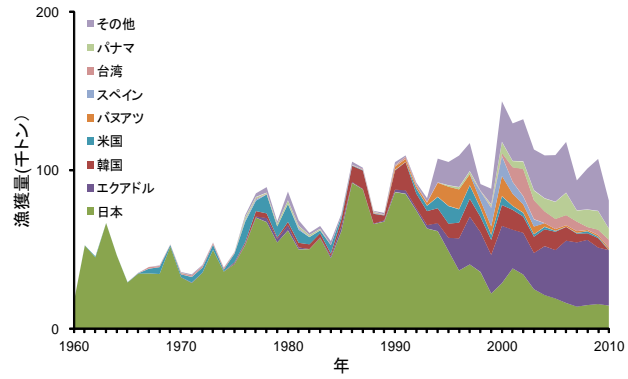
10 めばち

(1) 資源及び漁獲の状況

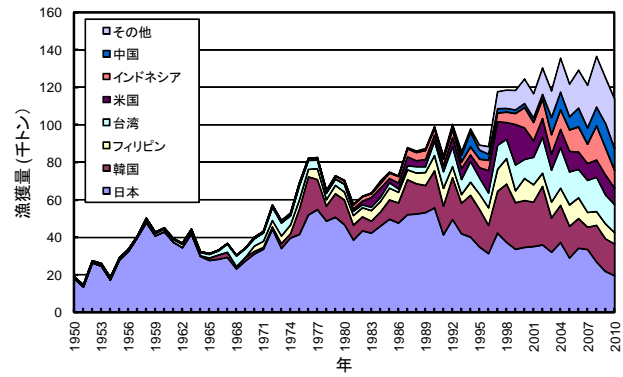
東部太平洋では、全米熱帯マグロ類委員会（IATTC）において、過剰漁獲の状況にはないと評価されている。資源の水準は低位、動向は横ばいと判断される。中西部太平洋では、WCPFCにおいて、近年の漁獲は過剰な状態にあると評価されている。資源の水準は中位、動向は減少と評価される。インド洋では、インド洋まぐろ類委員会（IOTC）において、資源及び漁獲は適正なレベルにあると評価されている。資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。大西洋では、大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）の評価において、過剰な漁獲の状況は脱したと見られている。資源の水準は低位、動向は横ばいと判断される。

なお、我が国では、主に遠洋まぐろはえ縄漁業及び近海まぐろはえ縄漁業により当該資源を漁獲しており、2009年の漁獲量は6.4万ト

ンである。

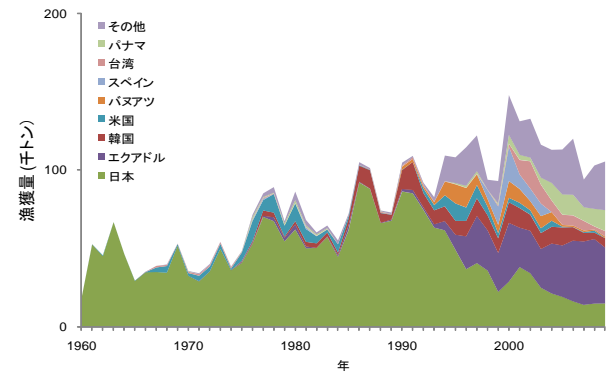


東部太平洋

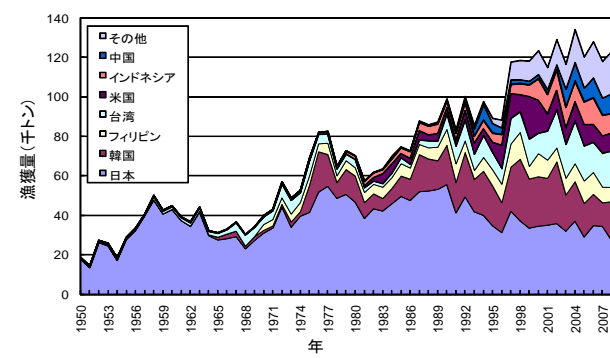


中西部太平洋

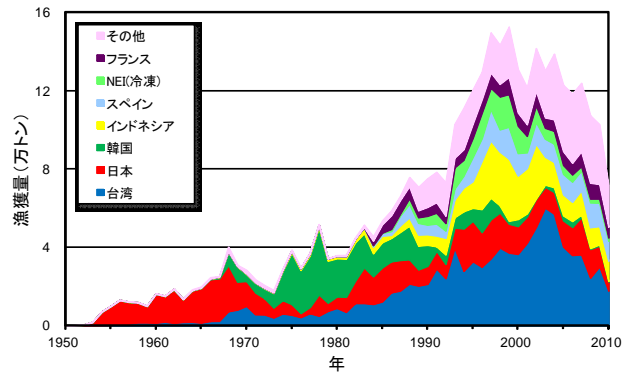
ンである。



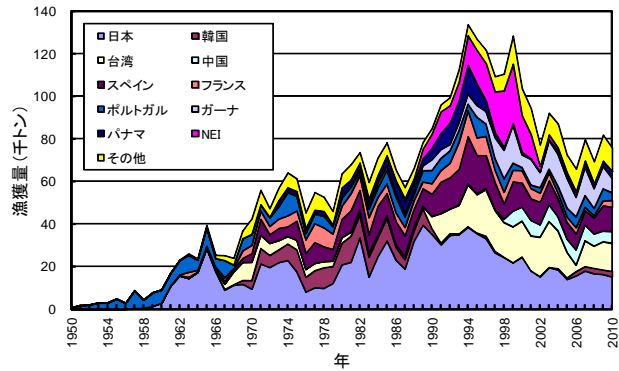
東部太平洋



中西部太平洋



インド洋

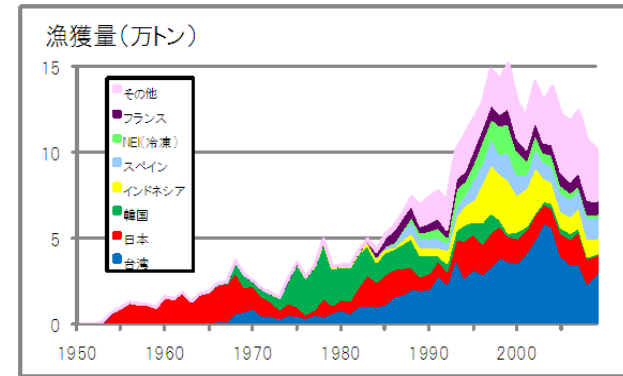


大西洋

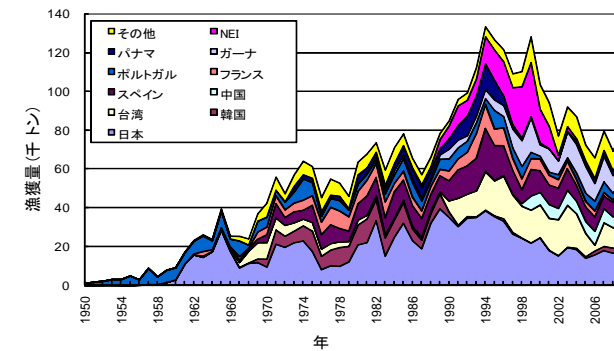
各海域におけるめばちの国別漁獲量

(国際漁業資源の現況をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)



インド洋



大西洋

各海域におけるめばちの国別漁獲量

(国際漁業資源の現況をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)

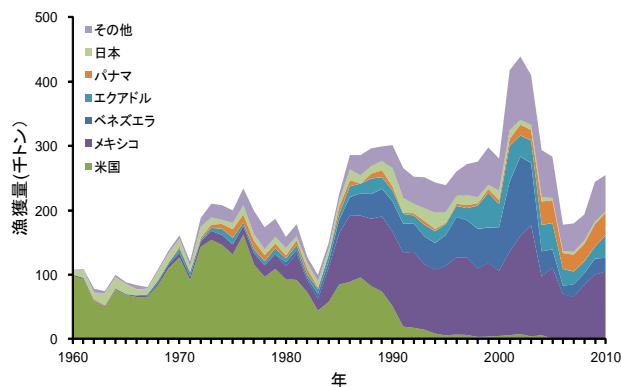


## 1 1 きはだ

### (1) 資源及び漁獲の状況

東部太平洋では、IATTCにおいて、漁獲は過剰ではないと評価されている。資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。中西部太平洋では、WCPFCにおいて、漁獲は過剰ではないと評価されている。資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。インド洋では、IOTCにおいて、現在の漁獲は過剰ではないと評価されている。資源の水準は中位、動向は微増と判断される。大西洋では、ICCATにおいて、資源は乱獲状態にあるものの、漁獲圧は高くないと見られている。資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。

なお、我が国では、主に太平洋中央海区及びインド洋海区を操業区域とする大中型まき網漁業（以下、「海外まき網漁業」という。）、遠洋まぐろはえ縄漁業及び近海まぐろはえ縄漁業により当該資源を漁獲しており、2010年の漁獲量は7.4万トンである。



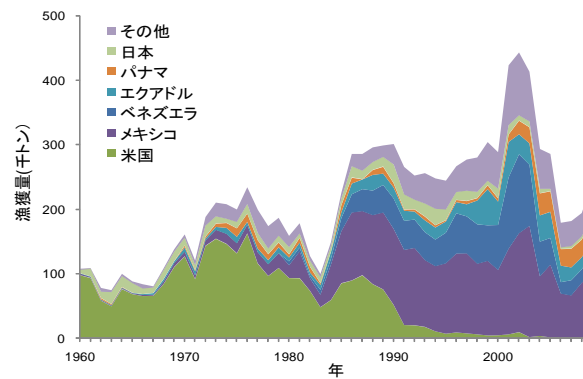
東部太平洋

## 1 1 きはだ

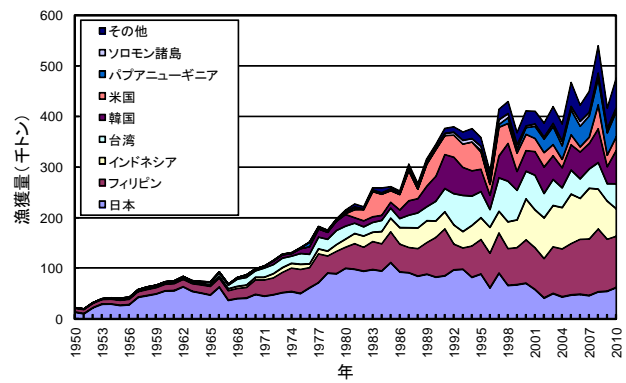
### (1) 資源及び漁獲の状況

東部太平洋では、IATTCにおいて、漁獲は過剰ではないと評価されている。資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。中西部太平洋では、WCPFCにおいて、漁獲は過剰ではないと評価されている。資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。インド洋では、IOTCにおいて、大量漁獲時（2003～2006年レベル）からは減少したが、依然過剰な漁獲状況にあり、資源は乱獲初期の状況にあると評価されている。資源の水準は中位、動向は減少と判断される。大西洋では、ICCATにおいて、資源は比較的健全な状態にあり、漁獲圧も適正であると見られている。資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。

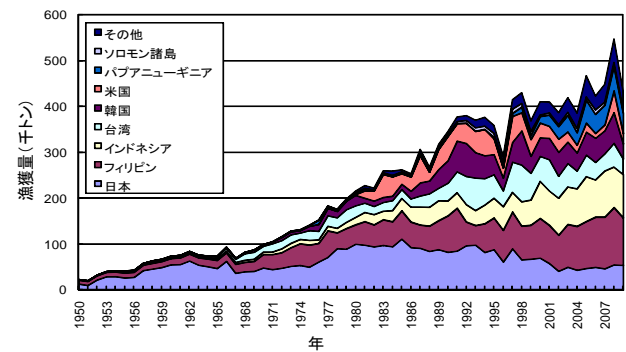
なお、我が国では、主に太平洋中央海区及びインド洋海区を操業区域とする大中型まき網漁業（以下、「海外まき網漁業」という。）、遠洋まぐろはえ縄漁業及び近海まぐろはえ縄漁業により当該資源を漁獲しており、2009年の漁獲量は6.8万トンである。



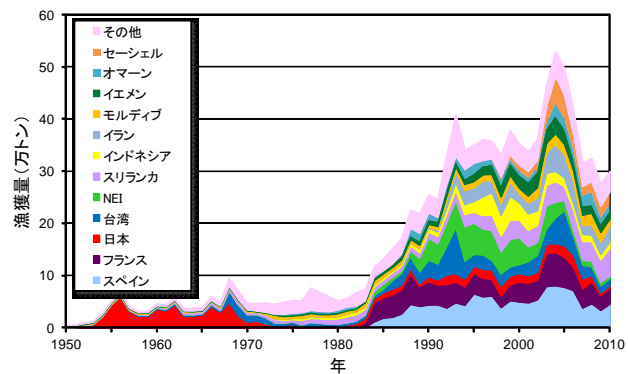
東部太平洋



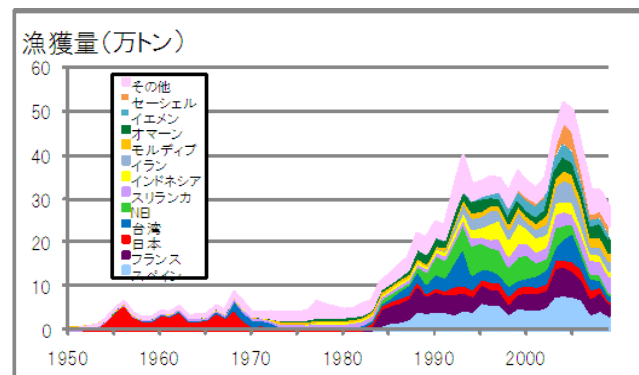
中西部太平洋



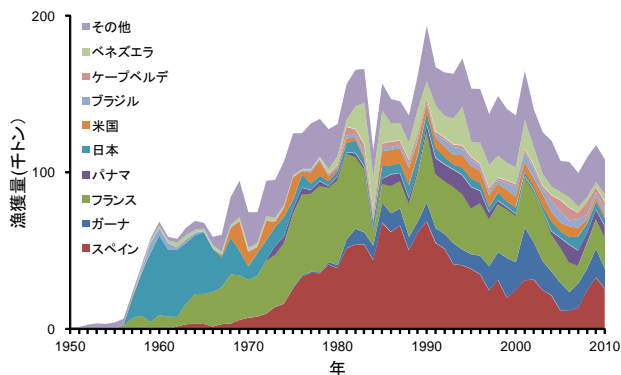
中西部太平洋



インド洋



インド洋



大西洋

各海域におけるきはだの国別漁獲量

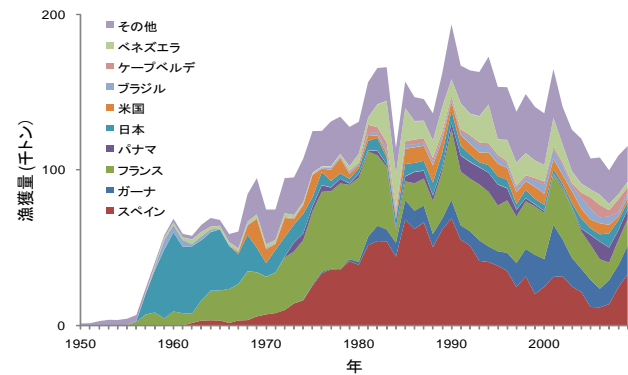
(国際漁業資源の現況をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)

1.2 かつお

(1) 資源及び漁獲の状況

我が国漁船が主に操業している中西部太平洋では、WCPFCにおいて、漁獲は過剰ではないと評価されているものの、近年漁獲による死亡の割合が増加傾向にあることが指摘されている。資源の水準は高位、動向は減少と判断される。しかしながら、1970年代以降15~20万トンで安定してきた北緯20度以北の日本近海での漁獲量が、近年は低調に推移してきていることなどから、WCPFCにおける資源評価において、赤道域での漁獲量の増大が我が国周辺水域等の高緯度域での漁獲の減少に結びついている可能性があるとして、漁獲努力量の増大を監視していく必要があるとされている。



大西洋

各海域におけるきはだの国別漁獲量

(国際漁業資源の現況をもとに作成)

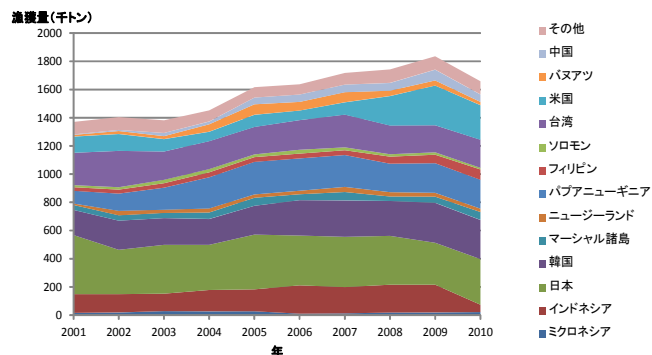
(2) ~ (3) (略)

1.2 かつお

(1) 資源及び漁獲の状況

我が国漁船が主に操業している中西部太平洋では、WCPFCにおいて、漁獲は過剰ではないと評価されているものの、近年漁獲による死亡の割合が増加傾向にあることが指摘されている。資源の水準は高位、動向は減少と判断される。しかしながら、1970年代以降15~20万トンで安定してきた北緯20度以北の日本近海での漁獲量が、近年は低調に推移してきていることなどから、WCPFCにおける資源評価において、赤道域での漁獲量の増大が我が国周辺水域等の高緯度域での漁獲の減少に結びついている可能性があるとして、漁獲努力量の増大を監視していく必要があるとされている。

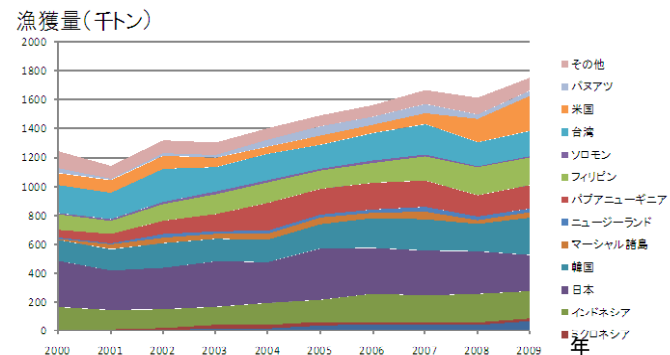
なお、我が国では、主に海外まき網漁業、遠洋かつお一本釣り漁業、近海かつお一本釣り漁業及び大中型まき網漁業（海外まき網漁業を除く）により当該資源を漁獲しており、2010年の漁獲量は32万トンである。



中西部太平洋におけるかつおの国別漁獲量

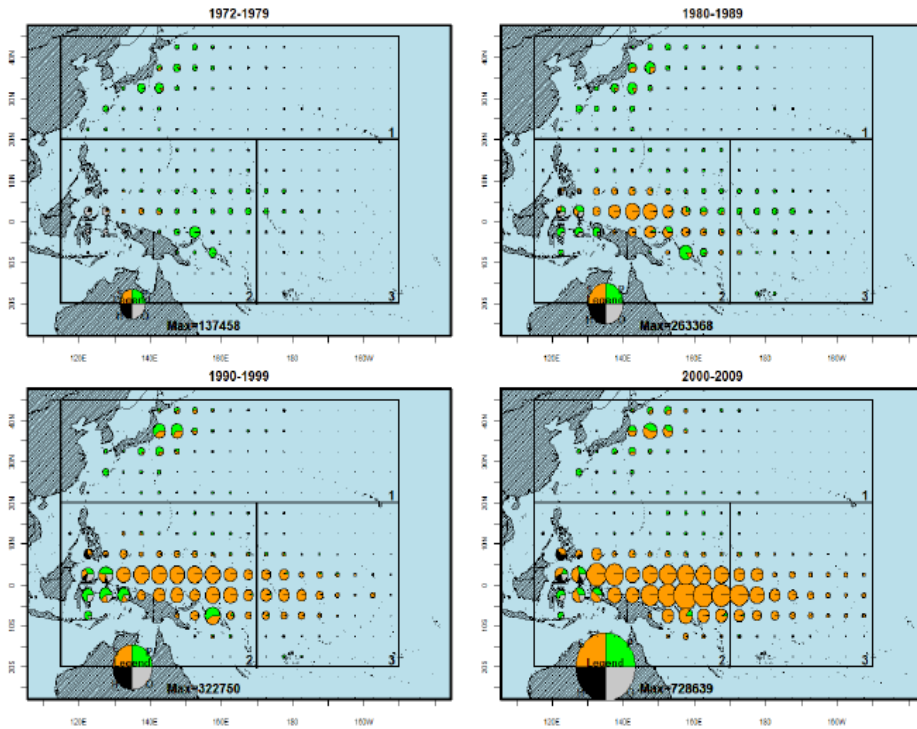
(国際漁業資源の現況をもとに作成)

なお、我が国では、主に海外まき網漁業、遠洋かつお一本釣り漁業、近海かつお一本釣り漁業及び大中型まき網漁業（海外まき網漁業を除く）により当該資源を漁獲しており、2009年の漁獲量は26万トンである。



中西部太平洋におけるかつおの国別漁獲量

(国際漁業資源の現況をもとに作成)

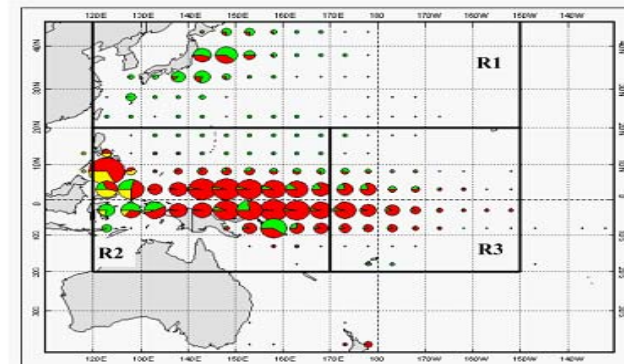


中西部太平洋における各海域での1972年~2009年の漁法別累積かつお漁獲量分布

(緑：竿釣り、**橙**：まき網、**黒**：手釣り、**灰**：その他)

(Hoyle et al. [2011](#))

(2) ~ (3) (略)



中西部太平洋における各海域での1972~2008年の漁法別累積かつお漁獲量分布

(緑：竿釣り、**赤**：まき網、**黄**：その他)

(Hoyle et al. [2010](#))

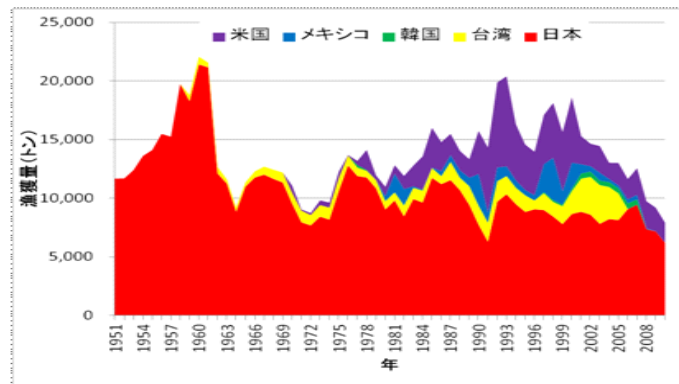
(2) ~ (3) (略)

### 1.3 めかじき

#### (1) 資源及び漁獲の状況

北太平洋では、太平洋まぐろ類国際科学委員会（ISC）において、資源の状況は健全であり、また、過剰漁獲の状況にはないと評価されている。資源の水準は高位、動向は安定と判断される。インド洋では、IOTCにおいて、資源は乱獲状態になく、漁獲は過剰でないと評価されている。資源の水準は中位、動向は微増と判断される。北大西洋では、ICCATにおいて、資源は乱獲状態になく、漁獲は過剰でないと評価されている。資源の水準は中位、動向は増加と判断される。南大西洋では同じくICCATの評価において、資源は乱獲状態になく、漁獲は過剰でない可能性が高いとされている。資源の水準は中位、動向は増加と判断される。

なお、我が国では、主に遠洋まぐろはえ縄漁業及び近海まぐろはえ縄漁業により当該資源を漁獲しており、2010年の漁獲量は0.9万トンである。



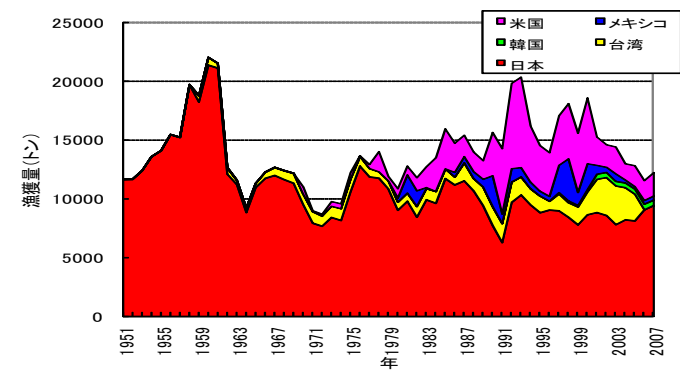
北太平洋

### 1.3 めかじき

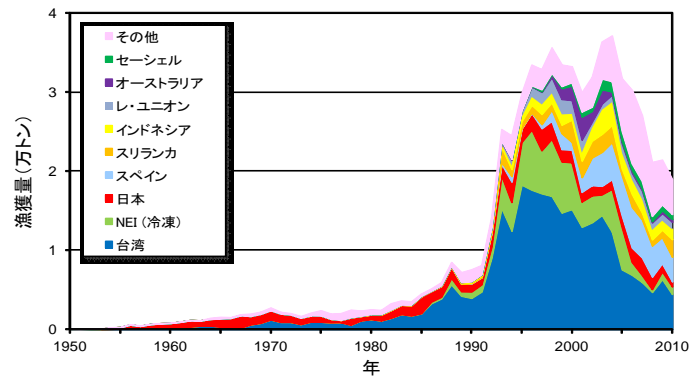
#### (1) 資源及び漁獲の状況

北太平洋では、太平洋まぐろ類国際科学委員会（ISC）において、資源の状況は健全であり、また、過剰漁獲の状況にはないと評価されている。資源の水準は高位、動向は安定と判断される。インド洋では、IOTCにおいて、資源は乱獲状態になく、漁獲は過剰でないと評価されている。資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。北大西洋では、ICCATにおいて、資源は乱獲状態になく、漁獲は過剰でないと評価されている。資源の水準は中位、動向は増加と判断される。南大西洋では同じくICCATの評価において、資源は乱獲状態になく、漁獲は過剰でない可能性が高いとされている。資源の水準は中位、動向は増加と判断される。

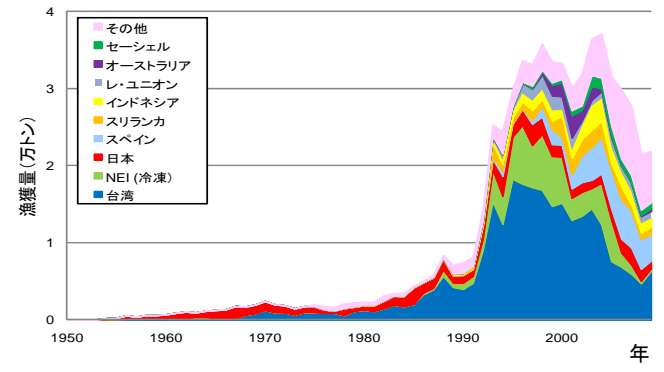
なお、我が国では、主に遠洋まぐろはえ縄漁業及び近海まぐろはえ縄漁業により当該資源を漁獲しており、2009年の漁獲量は1.2万トンである。



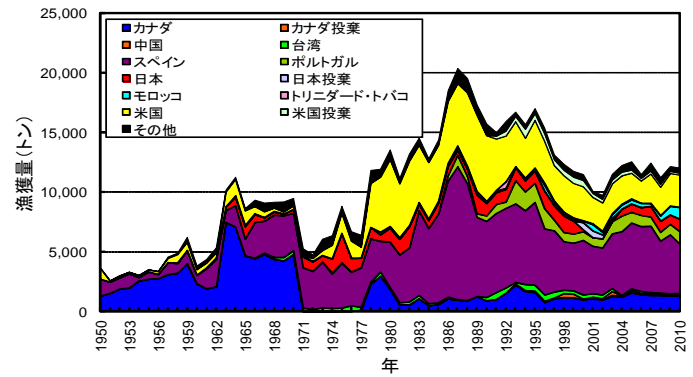
北太平洋



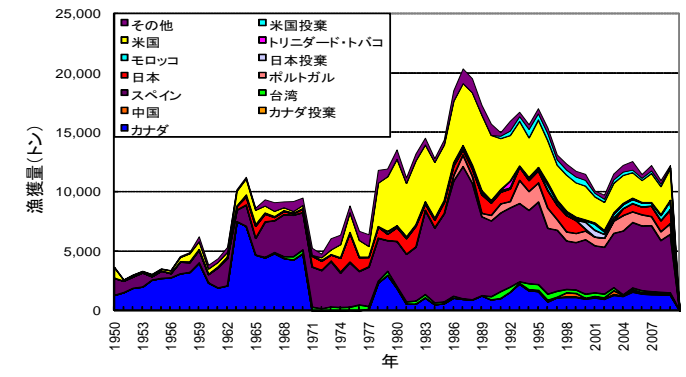
インド洋



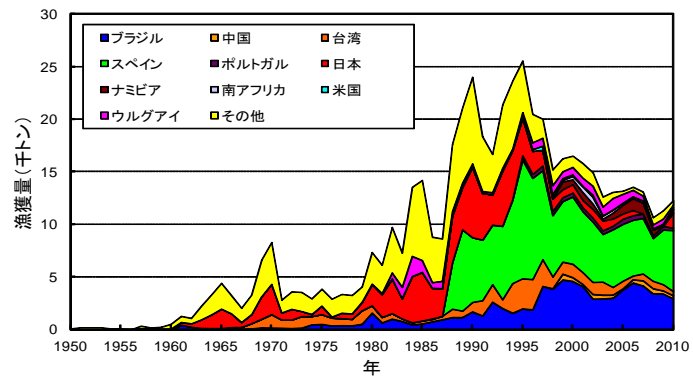
インド洋



北大西洋



北大西洋

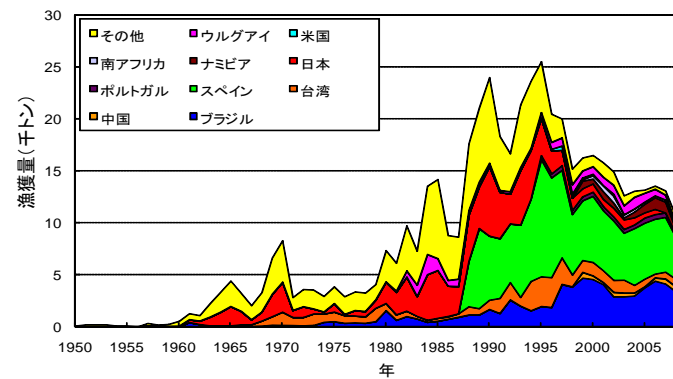


南大西洋

各海域におけるめかじきの国別漁獲量

(国際漁業資源の現況をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)



南大西洋

各海域におけるめかじきの国別漁獲量

(国際漁業資源の現況をもとに作成)

(2) ~ (3) (略)



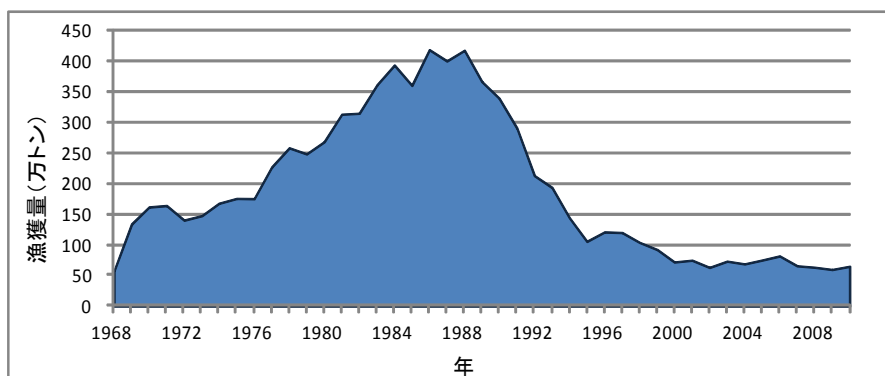
## 【漁業種類別資源管理】

### 1 大中型まき網漁業（海外まき網漁業を除く）

#### （1）漁獲の状況

大中型まき網漁業は、操業海域に応じて、まあじ、まいわし、さば類、するめいか、太平洋くろまぐろ又はかつお等の浮魚類を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うこととはせず、漁業種類別の措置として海域毎に資源管理措置を講ずることとする。

大中型まき網漁業の漁獲量は、1986年に過去最高となる419万トン記録したが、まいわし資源の長期的変動に伴う資源の急激な変化とともに減少し、2010年の漁獲量は65万トンであった。



大中型まき網漁業の漁獲量の推移（海外まき網漁業を除く）

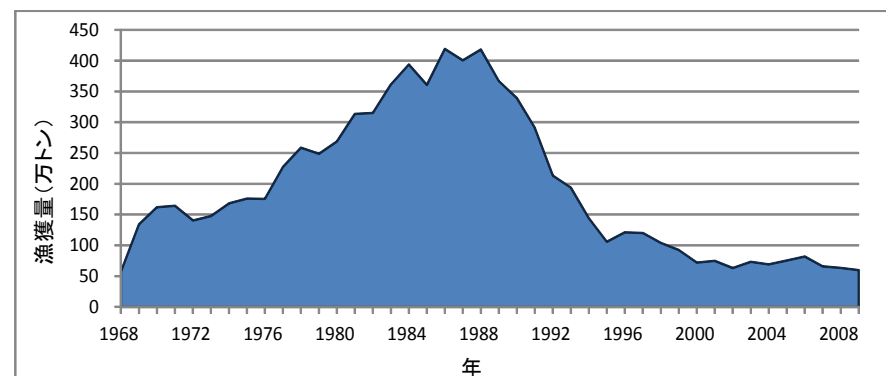
## 【漁業種類別資源管理】

### 1 大中型まき網漁業（海外まき網漁業を除く）

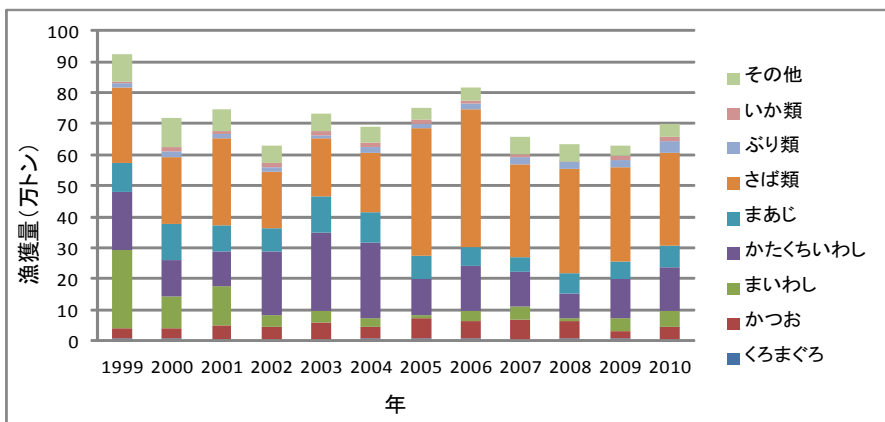
#### （1）漁獲の状況

大中型まき網漁業は、操業海域に応じて、まあじ、まいわし、さば類、するめいか、太平洋くろまぐろ又はかつお等の浮魚類を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うこととはせず、漁業種類別の措置として海域毎に資源管理措置を講じることとする。

大中型まき網漁業の漁獲量は、1986年に過去最高となる419万トン記録したが、まいわし資源の長期的変動に伴う資源の急激な変化とともに減少し、2009年の漁獲量は60万トンであった。



大中型まき網漁業の漁獲量の推移（海外まき網漁業を除く）



大中型まき網漁業の魚種別漁獲量の推移（海外まき網漁業を除く）

（漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成）

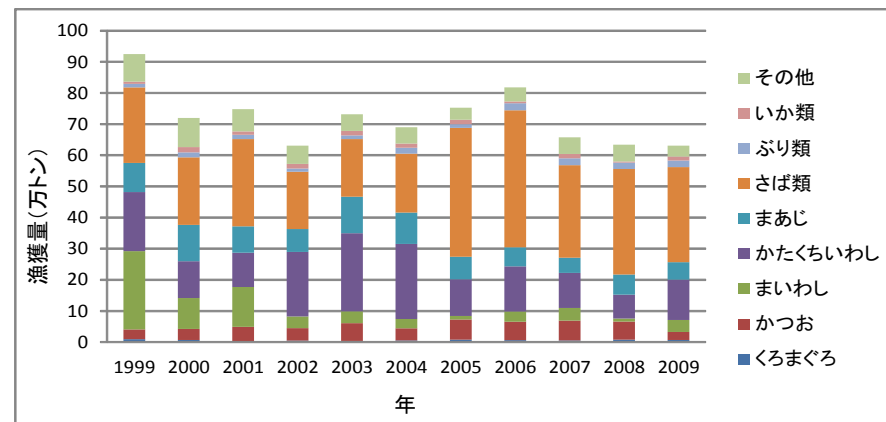
## （２）資源管理措置

まあじ、まいわし、さば類、するめいか、太平洋くらまぐろ又はかつお等の資源を管理目標に従って回復、維持又は増大させるため、漁獲可能量、制限又は条件等の公的措置を遵守するほか、自主的措置として、下記の措置に重点的に取り組む必要がある。

### ○休漁

上記の措置のほか、まあじ、まいわし、さば類及びするめいかについて、年間の漁獲可能量以下の漁獲量上限を設定するとともに、資源状況及び来遊状況を踏まえて、四半期別漁獲目標量を設定する必要がある。四半期別漁獲目標量については、必要に応じて漁業者団体別に設定する。

（中略）



大中型まき網漁業の魚種別漁獲量の推移（海外まき網漁業を除く）

（漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成）

## （２）資源管理措置

まあじ、まいわし、さば類、するめいか、太平洋くらまぐろ又はかつお等の資源を管理目標に従って回復、維持又は増大させるため、漁獲可能量、制限又は条件等の公的措置を遵守するほか、自主的措置として、下記の措置に重点的に取り組む必要がある。

### ○休漁

上記の措置のほか、まあじ、まいわし、さば類及びするめいかについて、年間の漁獲可能量以下の漁獲量上限の設定を行う。また、資源状況及び来遊状況を踏まえて、まあじ、まいわし及びするめいかについては四半期別漁獲目標量を設定し、さば類については漁業者団体別に四半期別漁獲目標量を設定する必要がある。

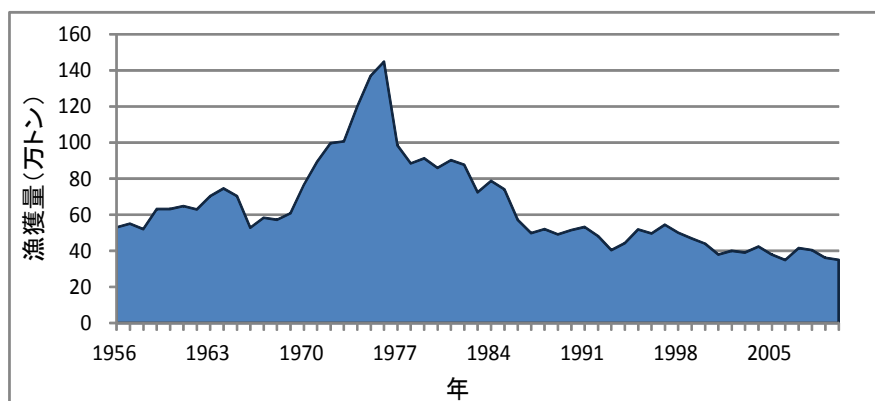
（中略）

## 2 沖合底びき網漁業

### (1) 漁獲の状況

沖合底びき網漁業は、操業海域に応じて、すけとうだら、するめいか、ずわいがに、まだら、ひらめ又はかれい類等の多様な底魚類を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理を行うこととはせず、漁業種類別の措置として地区毎に資源管理措置を講ずることとする。

沖合底びき網漁業の漁獲量は、ロシア連邦水域での漁獲もあって1976年に過去最高となる145万トン記録した。その後、ロシア連邦の排他的経済水域の設定等に伴い減少したが、近年は比較的安定し、**2010年**の漁獲量は**35万トン**であった。



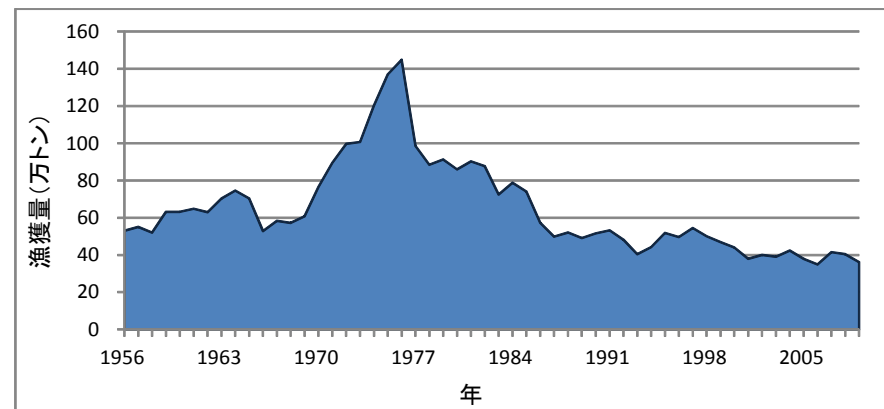
沖合底びき網漁業の漁獲量の推移

## 2 沖合底びき網漁業

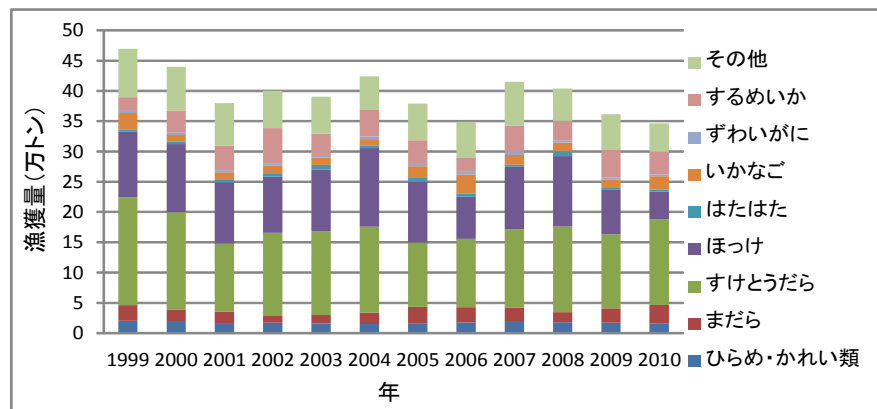
### (1) 漁獲の状況

沖合底びき網漁業は、操業海域に応じて、すけとうだら、するめいか、ずわいがに、まだら、ひらめ又はかれい類等の多様な底魚類を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理を行うこととはせず、漁業種類別の措置として地区毎に資源管理措置を講ずることとする。

沖合底びき網漁業の漁獲量は、ロシア連邦水域での漁獲もあって1976年に過去最高となる145万トン記録した。その後、ロシア連邦の排他的経済水域の設定等に伴い減少したが、近年は比較的安定し、**2009年**の漁獲量は**36万トン**であった。



沖合底びき網漁業の漁獲量の推移



沖合底びき網漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

## (2) 資源管理措置

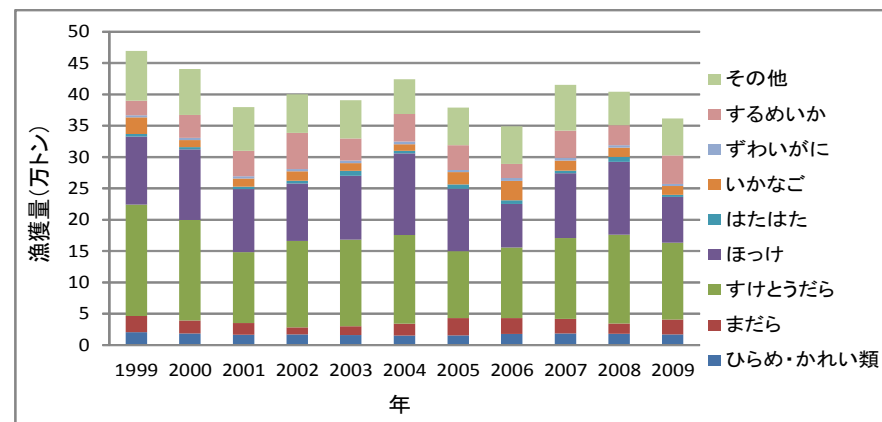
すけとうだら、するめいか又はずわいがにの資源管理目標に従って回復又は維持を図るとともに、各地区における主要な漁獲対象魚種の資源を維持又は増大させるため、漁獲可能量の設定、制限又は条件等の公的措置を遵守するほか、自主的措置として、各地区において下表の箇条書きの措置に重点的に取り組む必要がある。

(中略)

## 3 以西底びき網漁業

### (1) 漁獲の状況

以西底びき網漁業は、かれい類、たい類及びいか類等の多様な底魚類を主な漁獲対象魚種とするが、特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。



沖合底びき網漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

## (2) 資源管理措置

すけとうだら、するめいか又はずわいがにの資源管理目標に従って回復又は維持を図るとともに、各地区における主要な漁業対象魚種の資源を維持又は増大させるため、漁獲可能量の設定、制限又は条件等の公的措置を遵守するほか、自主的措置として、各地区において下表の箇条書きの措置に重点的に取り組む必要がある。

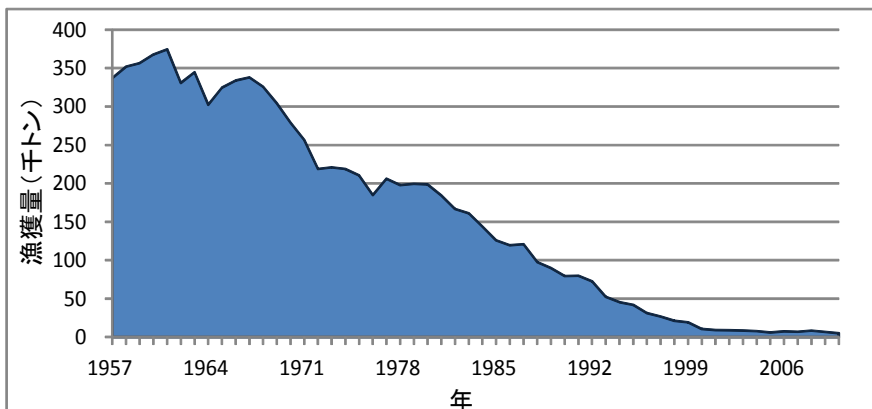
(中略)

## 3 以西底びき網漁業

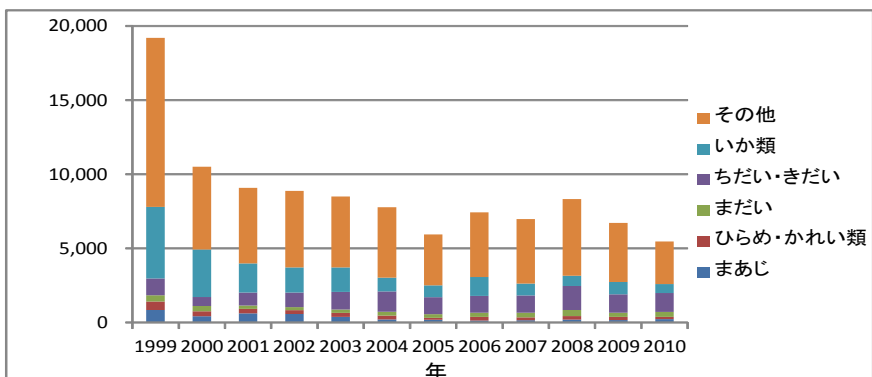
### (1) 漁獲の状況

以西底びき網漁業は、かれい類、たい類及びいか類等の多様な底魚類を主な漁獲対象魚種とするが、特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。

以西底びき網漁業の漁獲量は、1961年に過去最高となる37万トン  
を記録したが、その後東シナ海・黄海における底魚資源の悪化、膨  
大な数の中国漁船との漁場競合による漁船数の大幅な減少等に伴っ  
て減少し、**2010**年の漁獲量は**5**千トンであった。



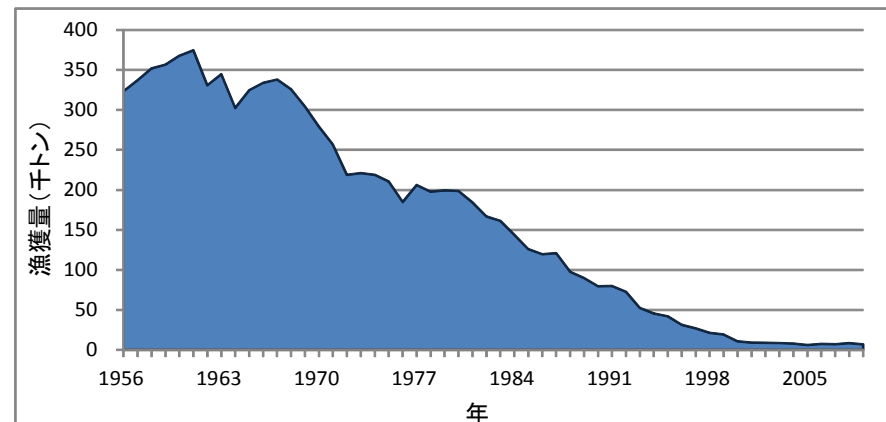
以西底びき網漁業の漁獲量の推移



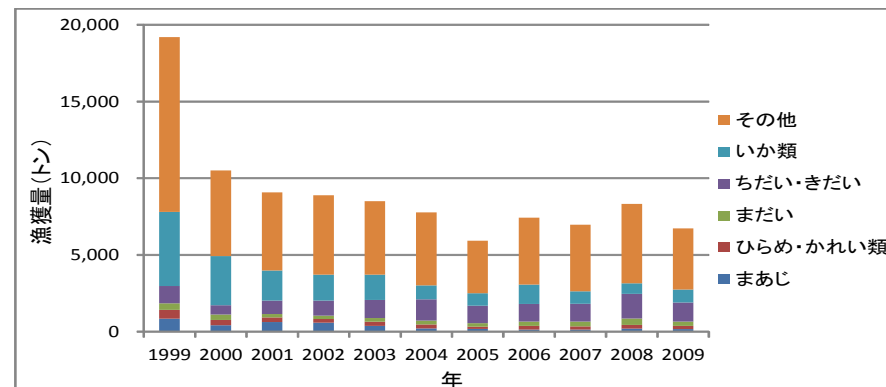
以西底びき網漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

以西底びき網漁業の漁獲量は、1961年に過去最高となる37万トン  
を記録したが、その後東シナ海・黄海における底魚資源の悪化、膨  
大な数の中国漁船との漁場競合による漁船数の大幅な減少等に伴っ  
て減少し、**2009**年の漁獲量は**7**千トンであった。



以西底びき網漁業の漁獲量の推移



以西底びき網漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

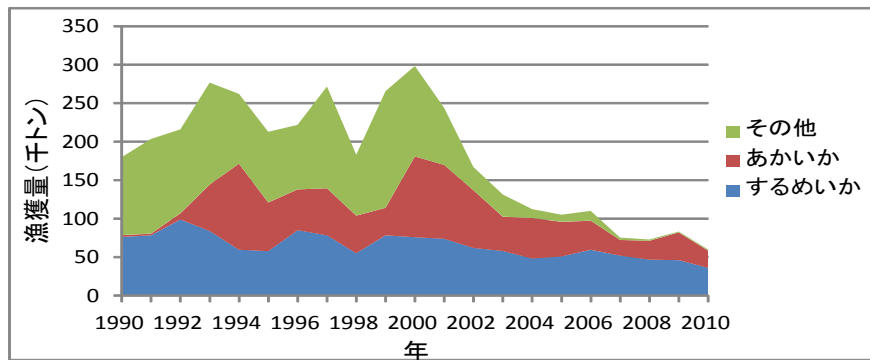
(2) (略)

#### 4 いか釣り漁業

##### (1) 漁獲の状況

いか釣り漁業は、するめいか又はあかいか等のいか類を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。

いか釣り漁業の漁獲量は、2000年に過去最高となる29.8万トン記録したが、主に外国水域での操業が困難になったことにより減少し、2010年の漁獲量は6万トンであった。



いか釣り漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

(2) (略)

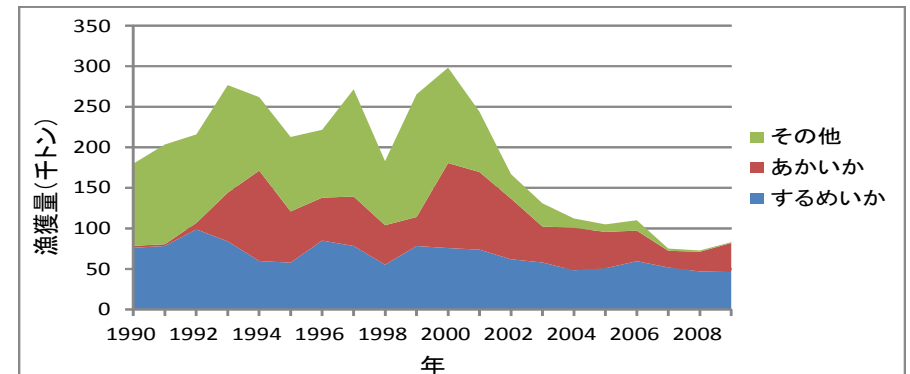
(2) (略)

#### 4 いか釣り漁業

##### (1) 漁獲の状況

いか釣り漁業は、するめいか又はあかいか等のいか類を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講じることとする。

いか釣り漁業の漁獲量は、2000年に過去最高となる29.8万トン記録したが、主に外国水域での操業が困難になったことにより減少し、2009年の漁獲量は8.3万トンであった。



いか釣り漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

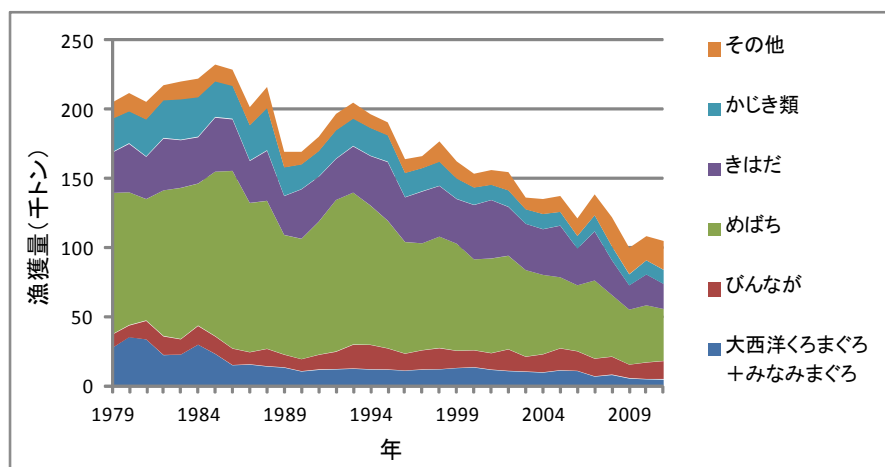
(2) (略)

## 5 遠洋まぐろはえ縄漁業

### (1) 漁獲の状況

遠洋まぐろはえ縄漁業は、めばち、きはだ又はめかじき等を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うことはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。

遠洋まぐろはえ縄漁業の漁獲量は、近年かつお・まぐろ資源の低迷とともに減少し、2010年の漁獲量は10.8万トンであった。



遠洋まぐろはえ縄漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

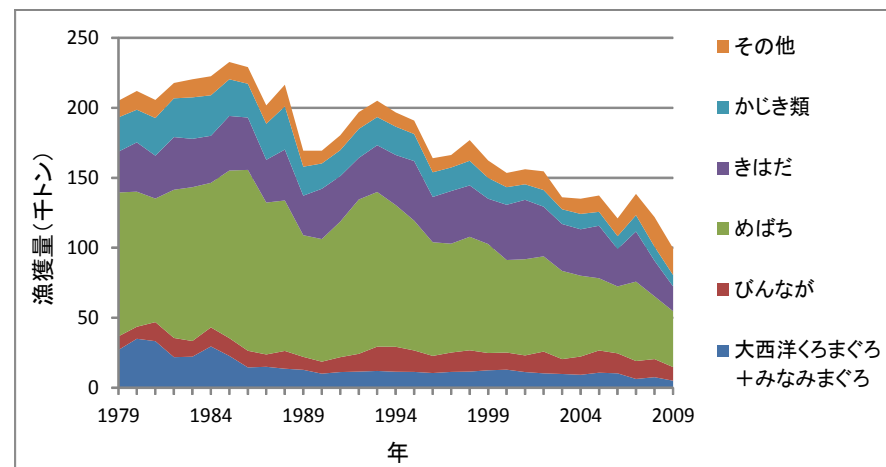
(2) (略)

## 5 遠洋まぐろはえ縄漁業

### (1) 漁獲の状況

遠洋まぐろはえ縄漁業は、めばち、きはだ又はめかじき等を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うことはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講じることとする。

遠洋まぐろはえ縄漁業の漁獲量は、近年かつお・まぐろ資源の低迷とともに減少し、2009年の漁獲量は10万トンであった。



遠洋まぐろはえ縄漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

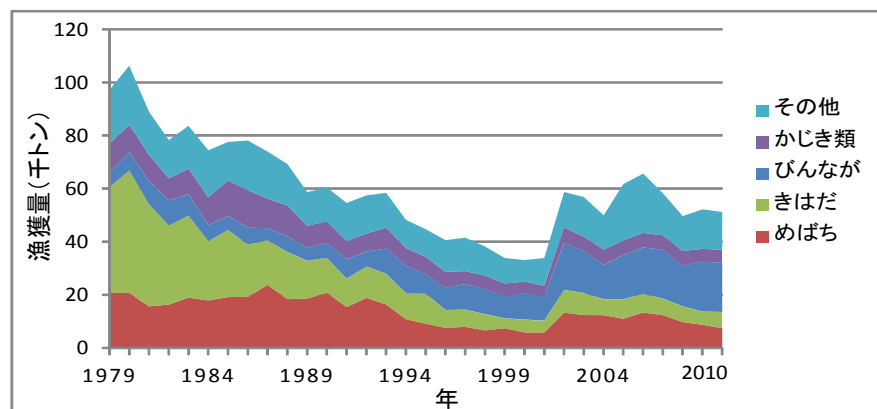
(2) (略)

## 6 近海まぐろはえ縄漁業

### (1) 漁獲の状況

近海まぐろはえ縄漁業は、めばち、きはだ又はめかじき等を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。

近海まぐろはえ縄漁業の漁獲量は、かつお・まぐろ資源の低迷とともに近年減少し、**2010年**の漁獲量は**4万**トンであった。



近海まぐろはえ縄漁業の魚種別漁獲量の推移 (注)

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

注：2002年度より20トン未満船による近海かつお・まぐろ漁業が大臣許可漁業になったことから、同年より20トン未満の漁獲量を含む。

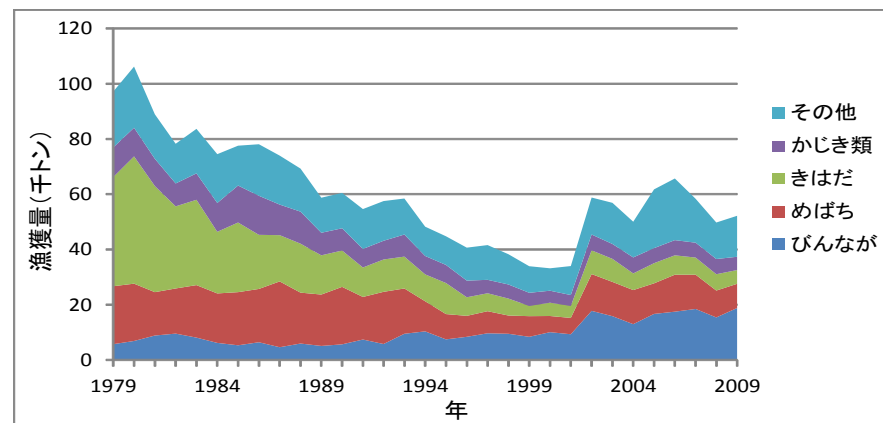
### (2) (略)

## 6 近海まぐろはえ縄漁業

### (1) 漁獲の状況

近海まぐろはえ縄漁業は、めばち、きはだ又はめかじき等を主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講じることとする。

近海まぐろはえ縄漁業の漁獲量は、かつお・まぐろ資源の低迷とともに近年減少し、**2009年**の漁獲量は**5万**トンであった。



近海まぐろはえ縄漁業の魚種別漁獲量の推移 (注)

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

注：2002年度より20トン未満船による近海かつお・まぐろ漁業が大臣許可漁業になったことから、同年より20トン未満の漁獲量を含む。

### (2) (略)

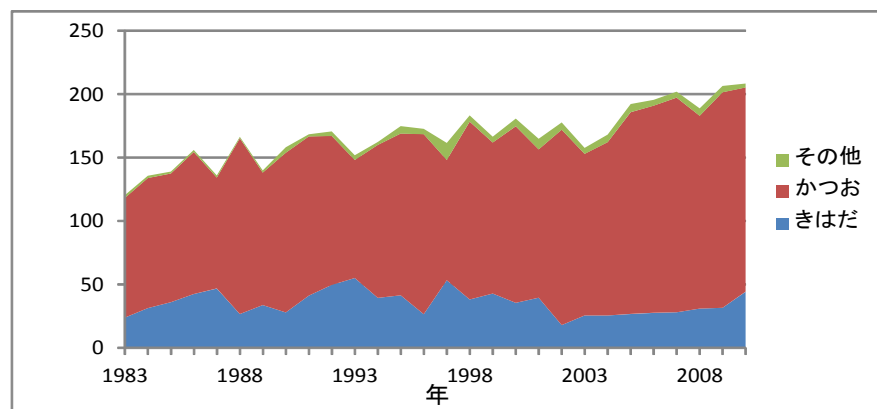


## 7 海外まき網漁業

### (1) 漁獲の状況

海外まき網漁業は、きはだ又はかつおを主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。

海外まき網漁業の漁獲量は、比較的安定しており、2010年の漁獲量は21万トンであった。



海外まき網漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

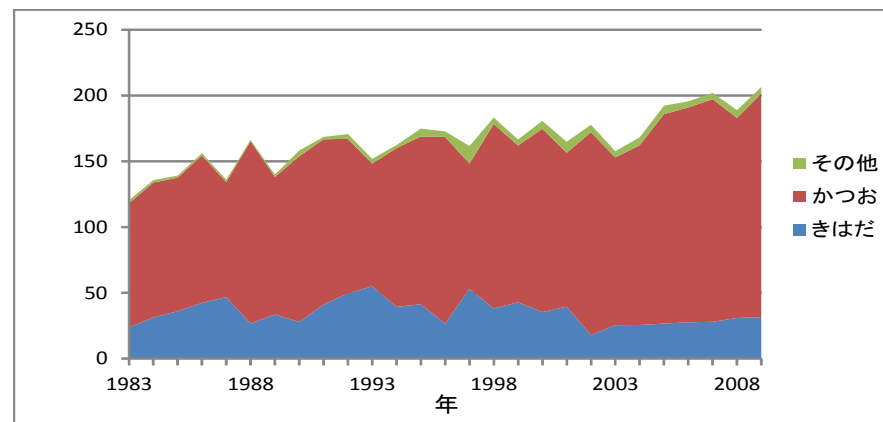
(2) (略)

## 7 海外まき網漁業

### (1) 漁獲の状況

海外まき網漁業は、きはだ又はかつおを主な漁獲対象魚種とするが、一年を通じて特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理措置を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講じることとする。

海外まき網漁業の漁獲量は、比較的安定しており、2009年の漁獲量は21万トンであった。



海外まき網漁業の魚種別漁獲量の推移

(漁業・養殖業生産統計年報をもとに作成)

(2) (略)

## 8 遠洋底びき網漁業及び太平洋底刺し網等漁業

### (1) 漁獲の状況

北西太平洋における遠洋底びき網漁業及び太平洋底刺し網等漁業は、くさかりつぼだい及びきんめだい等を主な漁獲対象魚種とするが、特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。

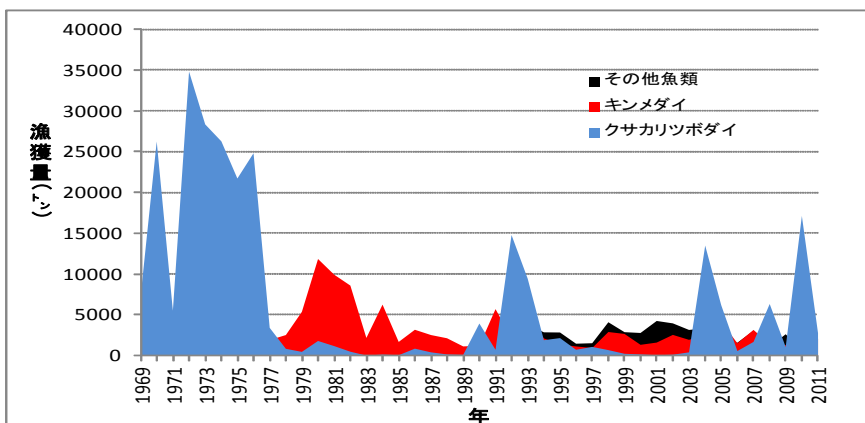
北西太平洋における遠洋底びき網漁業及び太平洋底刺し網等漁業の漁獲量は、くさかりつぼだいが多く漁獲された1972年に最高となる35,140トン記録してから1976年までの毎年において良好な漁獲量があったが、1977年にくさかりつぼだいの漁獲量の急激な減少に伴い全体の漁獲量が減少した。その後、漁獲量全体のうちきんめだいの割合が増加するものの、1983年からはきんめだいの漁獲量が減少し、全体の漁獲量も増減を繰り返した後、くさかりつぼだいの卓越年級群が発生した1992年、2004年及び2010年の3回を除いて漁獲量は低水準となっている。

## 遠洋底びき網漁業及び太平洋底刺し網等漁業

### (1) 漁獲の状況

北西太平洋における遠洋底びき網漁業及び太平洋底刺し網等漁業は、くさかりつぼだい及びきんめだい等を主な漁獲対象魚種とするが、特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。

北西太平洋における遠洋底びき網漁業及び太平洋底刺し網等漁業の漁獲量は、くさかりつぼだいが多く漁獲された1972年に最高となる35,140トン記録してから1976年までの毎年において良好な漁獲量があったが、1977年にくさかりつぼだいの漁獲量の急激な減少に伴い全体の漁獲量が減少した。その後、漁獲量全体のうちきんめだいの割合が増加するものの、1983年からはきんめだいの漁獲量が減少し、全体の漁獲量も増減を繰り返した。その後、くさかりつぼだいの卓越年級群が発生した1992年及び2004年の2回を除いて漁獲量は低水準となっている。



北西太平洋における遠洋底びき網漁業及び太平洋底刺し網等漁業の漁獲量

((独) 水産総合研究センター国際水産資源研究所資料)

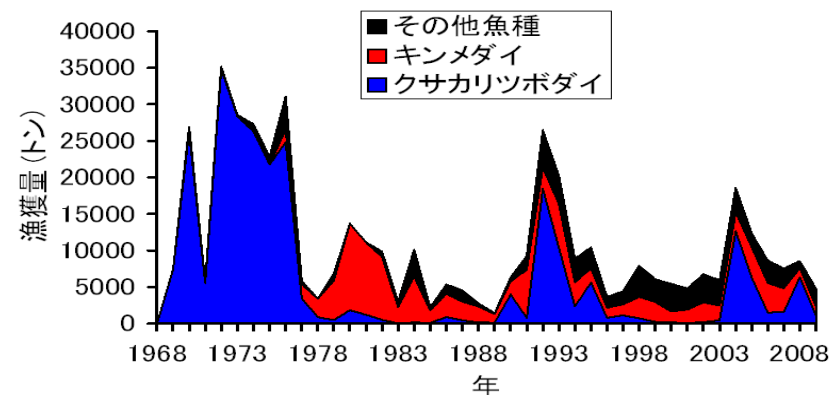
(2) (略)

## 9 東シナ海はえ縄漁業

### (1) 漁獲の状況

東シナ海はえ縄漁業は、はた類、たい類及びきんめだい等の多様な底魚類を主な漁獲対象魚種とするが、特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。

東シナ海はえ縄漁業の漁獲量は、2004年から2010年にかけて概ね600トン前後で推移している。



北西太平洋における遠洋底びき網漁業及び太平洋底刺し網等漁業の漁獲量

((独) 水産総合研究センター国際水産資源研究所資料)

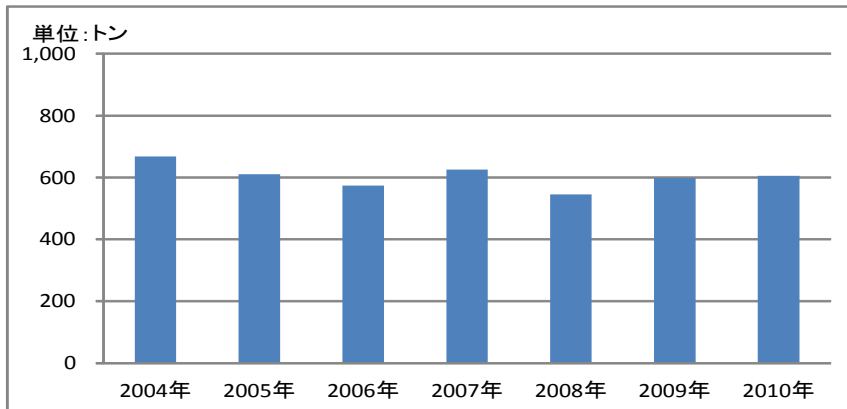
(2) (略)

## 9 東シナ海はえ縄漁業

### (1) 漁獲の状況

東シナ海はえ縄漁業は、はた類、たい類及びきんめだい等の多様な底魚類を主な漁獲対象魚種とするが、特定の魚種を選択的に漁獲することは難しいことから、魚種別に資源管理を行うこととはせず、漁業種類別の措置として資源管理措置を講ずることとする。

東シナ海はえ縄漁業の漁獲量は、2004年から2009年にかけて概ね600トン前後で推移している。



東シナ海はえ縄漁業の漁獲量の推移

(東シナ海はえ縄漁業操業成績報告書をもとに作成)

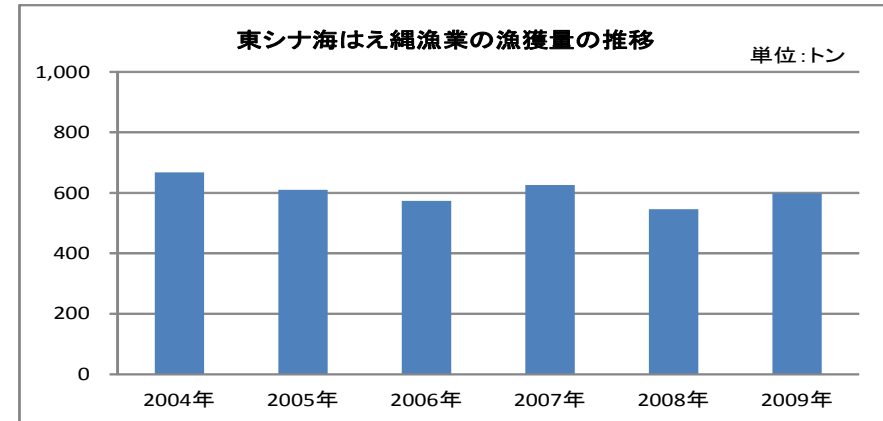
(2) (略)

第3 その他 (略)

別紙

資源管理措置の履行確認手段について

各漁業者の行う資源管理措置の履行確認に当たっては、下表左欄の資源管理措置毎に、右欄に掲げる各手段を用いることとし、併せて漁獲量把握システムを活用するものとする。



東シナ海はえ縄漁業の漁獲量の推移

(東シナ海はえ縄漁業操業成績報告書をもとに作成)

(2) (略)

第3 その他 (略)

別紙

資源管理措置の履行確認手段について

各漁業者の行う資源管理措置の履行確認に当たっては、下表左欄の資源管理措置毎に、右欄に掲げる各手段を用いることとし、併せて漁獲量把握システムを活用するものとする。

資源管理措置	履行確認手段
休漁	以下のいずれかの資料を用いる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁獲成績報告書の写し及び仕切書の写し（市場取扱データ、荷受伝票等の水揚げを示す書類）</li> <li>・ <u>係船等</u>にて休漁している漁船の写真</li> <li>・ VMSの記録</li> <li>・ 作業時の無線等連絡の記録</li> <li>・ 入港日及び出港日が確認できる書類（入港届、出港届等）</li> </ul>
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)

資源管理措置	履行確認手段
休漁	以下のいずれかの資料を用いる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁獲成績報告書の写し及び仕切書の写し（市場取扱データ、荷受伝票等の水揚げを示す書類）</li> <li>・ <u>係船又はドック</u>にて休漁している漁船の写真</li> <li>・ VMSの記録</li> <li>・ 作業時の無線等連絡の記録</li> <li>・ 入港日及び出港日が確認できる書類（入港届、出港届等）</li> </ul>
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)
(中略)	(中略)